

# かねざわ 第83号

2023年(令和5年)2月

- (P-1) 運営委員会からのお知らせ  
パネル展示展報告、分科会代表との連絡会報告
- (P-4) 第5回学習会 探訪「北条義時と13人の宿老」

## 目次

### 運営委員会からのお知らせ

- 1 パネル展示展報告
- 2 分科会代表との連絡会報告

### 学習会

- 4 第5回学習会  
探訪「北条義時と13人の宿老」
- 10 第6回学習会  
「下剋上と斎藤道三」
- 17 第7回学習会  
「北条氏の滅亡と徳川氏の江戸入府」

### 分科会からの便り

- 24 「寺社を巡る会」活動記録
- 28 「古文書を読む会」学習記録
- 30 「ふれあいの道歩こう会」実施概要 NO39
- 33 「懐かしの映画を観る会」鑑賞録 NO41
- 39 「浮雲俳句会」抄録 NO59
- 42 「パソコンを使いこなす会」実施報告 11
- 45 行事予定 (3月~5月)

【お願い】 会員の皆様の寄稿をお待ちしています



## 金沢区生涯学習“わ”の会

ホームページ:<http://kanazawa-wanokai.in.cocacn.jp/>

メー ル:yokohama.kanazawa.wanokai@gmail.com

# 令和4年度 登録団体・「街の先生」活動紹介パネル展へ

今年も、金沢区民活動センター“ゆめかもん”が主催する「活動紹介パネル展」が開催されました。「わ」の会は昨年同様、活動紹介と新入会員の勧誘を目的としてパネルと勧誘チラシを出展しました。

開催 2022年11月20日(日)～11月26日(土)

場所 金沢区役所2F 区民活動センター 区民ギャラリー

概要 “わ”の会の目的・活動概要・学習会日程表等と、分科会の活動紹介をA0用紙2枚に、写真入りで掲載した。今年は切り貼りではなく専門業者に大判ポスター印刷を頼んだので綺麗に仕上がった。設置後出展者によるミニ交流会が開かれ、展示パネルを基に日頃の活動を紹介しあった。入会案内チラシは、昨年同様100枚準備し、17枚が持ち帰られた。



## 金沢区生涯学習“わ”の会

**定例学習会と分科会活動の  
両輪で金沢の歴史を学び  
豊かな生きがいを作る**

**設立:平成10年 会員数115名**

入会のご案内 ▶ ホームページ:「わの会」で検索 ▶

**“わ”の会 主な活動**

- 定期講座 (年7回開催)
  - \*1金沢(越前)及び金沢(越前)に開催したもので「古くから歴史のあふれる金沢」(歴史・文化・歴史の関わりを学ぶ)
  - \*2若狭の歴史をたどる(歴史・文化・歴史の関わりを学ぶ)
- 会報の発行
  - \*全県初の歴史文化 関係者の集りとして第4回発行
- 公開歴史講座

金沢を知るなら必携  
**かねざわの歴史事典 第3版**

**公開歴史講座**

**「海軍水道と横浜の水道」**

講師・前南大教授 名倉 隆 氏

近代化は大量の水を消費する。横浜湾の海軍と一大高層を有する横浜は先進的水道の建設を進めたが、より水源地を求めて競争することになった。この競争が、特許川開きして海水、節水の水へと発展させた。

日 時: 2022年11月27日(日) 13:30~

会 場: 金沢区役所 区民活動センター

定 額: 500円

参加人数: 定員100名(定員がなくなり次第終了)

申込: 金沢区役所 区民活動センター(1階)受付

申込先: 金沢区役所 区民活動センター(1階)受付

申込先: 金沢区役所 区民活動センター(1階)受付

主 催: 金沢区生涯学習“わ”の会

**2022年度 学習会計画表**

日 時	場 所	講 題	講 師
11月20日(日) 13:30~	区民活動センター	「海軍水道と横浜の水道」	名倉 隆 氏
11月27日(日) 13:30~	区民活動センター	「海軍水道と横浜の水道」	名倉 隆 氏
12月4日(日) 13:30~	区民活動センター	「海軍水道と横浜の水道」	名倉 隆 氏
12月11日(日) 13:30~	区民活動センター	「海軍水道と横浜の水道」	名倉 隆 氏
12月18日(日) 13:30~	区民活動センター	「海軍水道と横浜の水道」	名倉 隆 氏
12月25日(日) 13:30~	区民活動センター	「海軍水道と横浜の水道」	名倉 隆 氏

## “わ”の会分科会

**寺社を巡る会**

毎月1回、金沢市内の寺社を巡り、その歴史や文化について学びます。

**ふれあいの道歩こう会**

月に1回、金沢市内の山歩きを楽しみます。

**古文書を読む会**

古文書に挑戦しましょう。

**懐かしの映画を見る会**

地区センターの大スクリーン利用で、30分程度の懐かし映画です。

**浮雲俳句会**

浮雲俳句の勉強会を開催し、毎月1回、金沢市内の俳句会に参加します。

**パソコンを使いこなす会**

2022年度 活動実績

**詳しくはホームページを! 「わの会」で検索**

# 第18回分科会代表との連絡会 報告

日 時：2023年1月14日（土）10時25分～11時50分 場所：金沢公会堂 第一会議室

出席者：運営委員：江口、山腰、鶴岡、三浦、橘、田野実、斧原（記録）

分科会：寺社を巡る会（横山）、古文書を読む会（真田、松本）、  
ふれあいの道歩こう会（柴崎、熊谷）、懐かしの映画を観る会（鶴岡、橘）  
浮雲俳句会（太田、小俣）、パソコンを使いこなす会（林、大曾根）

配布資料： ①「第18回 分科会代表との連絡会」次第

②古文書を読む会 20周年記念 20年の歩み

## 1. 江口代表挨拶

- ・おめでとうございます。今年もコロナの年で苦勞しながらこの1年やってきた。
- ・寺社の20周年記念、古文書の20周年記念で盛大な行事を実施した。ふれあいもそろそろやる時期。
- ・この連絡会で“わ”の会全体をまとめていきたい。

## 2. 議事

### 2-1 分科会の活動に関する事項（10:20～11:00）

資料①に従い、鶴岡副代表の進行で、各分科会代表より報告

#### 1)「寺社を巡る会」（横山代表）

- ・本年もよろしくお祈りします。今日は、松崎さんが参加できなくなりました。
- ・金沢ガイド協会、鎌倉ガイド協会と調整、コロナ対策をして半日探訪をした。中止はなかった。
- ・20周年記念行事として「20年間の記録CD」「集合写真集」を作成し会員に配布。備蓄資金で対応。
- ・次年度は、三浦一族を中心に計画中。百寺巡礼に続く座学DVDを探す。バス探訪も検討中。

#### 2)「古文書を読む会」（真田代表）

- ・新年おめでとう。今年もよろしく。（資料に従って説明）
- ・20周年記念として「20年のあゆみ」を発刊し、特別講演を実施した。
- ・2022年度は、月2回（第1学習・第2学習）の活動。詳細は活動実績表を参照。
- ・2023年度は、講師の負担軽減のため学習会を月1回にする。代表の体調問題もあり、後継者探し中。会の運営では古文書を読むことよりも探すことが重要問題。中身を理解し説明できる講師を探している。

#### 3)「ふれあいの道歩こう会」（柴崎代表）

- ・2022年度も、総会で決めた計画表に従い活動。しかしコロナ蔓延でやむなく一部中止や延期あり。
- ・「関東ふれあいの道神奈川コース」は昨年完了。一部分参加できなかった人のために特番を実施。全17コース踏破者は7名。神奈川県へ申請し認定書と記念バッジが交付される予定。
- ・参加回数賞では、通算回数181回のところ、125回賞1名、175回賞2名。
- ・2023年度は、すべてのコースを神奈川県内に設定。会員数は17名→16名。ビジター9名に。

#### 4)「懐かしの映画を観る会」（鶴岡代表）

- ・一昨年まではコロナで休会があったが、2022年度は現時点で計画通り開催。平均参加者38名。40名が目標。解説書の事前配布や会員による解説メールなど何度も楽しめるようにし参加者を増やす。
- ・次年度は、2024年の20周年準備のためもあり世話人を10名に増やし体制を強化する。
- ・130分以上の映画上映には、準備・片付けを含め会場の2コマ確保が必要になる。最近、2コマ目が取れないケースが出てきたが会場と折衝してとれるよう努力したい。

#### 5)「浮雲俳句会」（太田代表）

- ・北野前代表をなくして2年。北野イズムを大切に伝統俳句作りの楽しさと幸せを互いに享受する会。
- ・投句、選句表作成・配信をデジタル化は、日程の余裕を生み、費用節約に大きく貢献した。  
メール句会のおかげでオミクロン株の感染爆発でも句会を中止することなく実施できた。
- ・会員全員で建設的な意見を言う「合評」を取り入れてきたが、有効に機能しつつある。
- ・毎月1回2時間の句会を開催。10月には金沢自然公園で吟行句会を実施、久々の忘年会も実施した。
- ・2023年度も定着してきた新しい体制を継続し発展させていく。会員15名を目指し新会員を募集中。

## 7. 「パソコンを使いこなす会」(林副代表)

- ・昨年度から複数の会員(高橋、熊谷、林、水野)が交代で講師を務めるように学習内容も広がった。
- ・実施講座は、WORD/7回、EXCEL/6回、Windows/6回、スマホ/2回、Internet・sns等/1回
- ・会員数22名。平均出席者数約16名(出席率80%)。2名休会中。
- ・2023年度の活動予定は検討中。過去3年の実績を整理し、実施したい項目を調査。
- ・高齢化で苦勞。PCテクニックの向上も大事だが一堂に会して「だべリング」することも意味がある。

## 2-2 “わ”の会の運営に関する事項

### 1) コロナ禍と学習会について、学習会予定、来期の体制について(江口代表)

- ・今年度は入会者18名、新入会員との懇談会を開けたことはよかった。来年度もぜひ実施したい。
- ・コロナによる人数制限で地区センターが使えず、市大ホール・教室を使用した。金沢文庫も50名制限(県の方針)のため“わ”の会通信で通知し50名定員で募集した。
- ・次年度の会場として、地区センターを予約したが、能見台の人数制限が問題になるので、並行して市大会場にも申請した。結果は3月末~4月初めに確定。(公的行事やカリキュラムが優先)
- ・歴史事典の第3版は当初800冊印刷サービス分60冊も少なくなり、今期中に200冊増刷予定した。次年度第4版の事典委員会を発足。  
販売委託先の宮脇書店(APITA)が改装のため2~4月休み。事典在庫を一時ひきあげ、4月再納入。
- ・来年度の探訪は「猿島」。荒天で渡船欠航の場合、浦賀ドッグとその周辺の見学を準備している。
- ・運営委員は、現在7名だが、今年度で2名退任予定。  
次年度は、代表/江口(あと1年)、副代表/鶴岡、山腰氏は委員として会を支える。(ホームページは世代交代)、編集委員長には鶴岡氏、探訪実行委員長には田野実氏を予定。

### 2) 会報について(鶴岡編集長)

- ・計画通り、年4回発行できた。
- ・編集委員9名。分科会6名、運営委員3名。委員の高齢化が進んでおり、編集長は運営委員が担当。
- ・編集はメール連絡で実施しているが、新年度に入り、新メンバーが決まったら編集委員会を面談で開く。

### 3) ホームページ・“わ”の会通信について(山腰委員長)

- ・ホームページは、学習会・分科会の年間計画と実績、実施予定、実施報告・記録、会報などを掲載、会の活動を、会員及び一般の方への情報発信。“わ”の会通信は、会員の有用情報をダイレクトメール。
- ・ホームページ開設以来18年。管理者の世代交代、リニューアルなど専門知識を持つ人材の発掘が必要。

### 4) フォーラムKANAZAWAについて(ゆめかもんパネル展示結果報告)(斧原担当)

- ・出展パネルの構成は同じで最新情報を掲載。今年は切り貼りではなく印刷したので品質が格段に向上。
- ・フォーラムKANAZAWA(団体・先生の実行委員会)とパネル展(ゆめかもん)は主催者が異なる。

### 5) その他(江口代表)

- ・“わ”の会は、生涯学習の会として金沢区の登録団体になっており、今年、3年ごとの更新を迎えた。分科会も登録しており、分科会の代表は現在のままで提出したが、来年度代表が変更の場合は届出が必要。区民活動センターのレターボックス利用や、会議室利用、印刷機使用などの優遇処置を受けられる。

以上

2022 年度第 5 回学習会

『北条義時と 13 人の宿老 —

「執権義時と実朝の暗殺」 ゆかりの地を歩く』

探訪実行委員 田野実 裕之

- ・開催日：2022年 10月 14日（金）
- ・ガイド：NPO 法人鎌倉ガイド協会、探訪実行委員会
- ・コース：鎌倉駅→鶴岡八幡宮→大倉幕府旧跡→義時法華堂跡→  
義時大倉亭推定地→覚園寺→鎌倉宮（解散）

【はじめに】

今年のNHK大河ドラマは、『鎌倉殿と13人』。北条義時を中心として、鎌倉殿、鎌倉武士団、朝廷などをめぐってのストーリーが展開されている。牧氏の変まで進み、これから、和田合戦、源実朝の暗殺、承久の乱と進む。

今回の探訪（第5回学習会）は、このストーリーや配役の顔を浮かべながら、北条義時や源実朝のゆかりの地を訪れてみようというものである。

【探訪】

前日までの期待は裏切られ、当日は小雨の中での探訪となった。

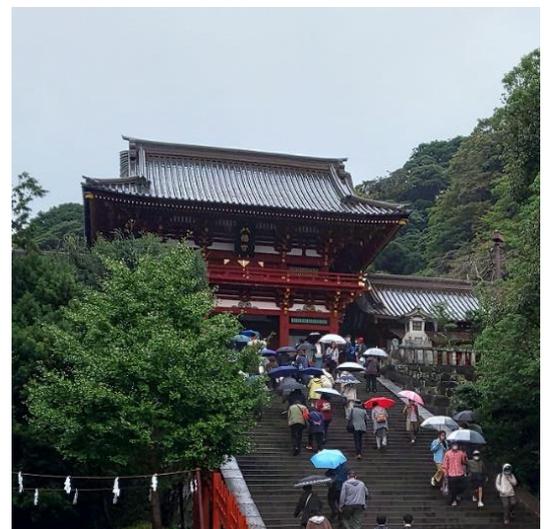
鎌倉駅西口の時計台広場に集合し、班が構成でき次第順次、探訪に出発した。まず、二の鳥居から段葛（若宮大路）に入り、鶴岡八幡宮に向かう。

鶴岡八幡宮

三の鳥居から鶴岡八幡宮に入り、本宮（上宮）前の大石段まで進む。



段葛（若宮大路）



鶴岡八幡宮の大石段

この段上では、建保七年（1219）1月、右大臣拝賀の式典を終えた源実朝が甥の公暁に討たれている。

この暗殺には、諸説の黒幕説がささやかれているが、黒幕はいなかったとの説もある。

白幡神社に至る。ここには、源頼朝と実朝が祀られており、二礼二拍手一礼を行う。



白幡神社前でのガイド風景

鎌倉国宝館の前にある石柱には、実朝が後鳥羽上皇に捧げたという和歌「山は裂け 海はあせなむ 世なりとも 君にふた心 わがあらめやも」が刻まれている。

八幡宮の西側を南に向かい、宝戒寺前から北上して、大倉幕府旧跡に向かう。

宝戒寺は、北条得宗家の跡地に建立された寺ではあるが、義時の小町邸でもあった。

途中、横浜国大付属小学校の前を通る。その校内にはかつて西御門川が流れており、そのあたりに三浦義村の館があったという。実朝を討ちとった公暁は、八幡宮の裏山を抜けて義村邸の板塀までたどり着き、討ちとられたという。

#### 大倉（蔵）幕府旧跡

清泉小学校の角に大倉幕府旧跡の碑がある。

大倉幕府は、源頼朝が鎌倉入りした治承四年（1180）の12月に建立された。しかし、実朝が暗殺された年（建保七年（1219））に焼失し、次期将軍となる藤原三寅（頼経）は、義時の大倉亭に入ったという。その後、幕府は、嘉禄元年（1225）に宇都宮辻子に再建される。

#### 義時法華堂跡

源頼朝の墓の下を右折し、しばらく先の石段を上ると義時の法華堂の跡に至る。



北条義時法華堂跡への階段

説明板のQRコードをスマホで読み込むと、復元された法華堂が映し出される。

そこにある説明板は、今年、新しくされたものである。やはり、大河ドラマの影響によるものだろうか。

その左奥には、宝治合戦で滅んだ三浦一族のやぐらがある。

#### 大倉亭推定地（北条義時跡）

二階堂大路の近くには、義時の「大倉亭」や藤原頼経（第4代将軍）の御所があったと考えられている。平成28年（2016）に行われた発掘調査により、そのことが推定されているという。

#### 覚園寺（鷲峰山真言院覚園寺）

鎌倉宮で小休止を取り、覚園寺に向かう。

覚園寺は、真言宗泉涌寺派の寺で、創建は永仁四年（1296）、開基は北条貞時、本尊は薬師三尊像である。その前身は、義時が78年前に建立した大倉薬師堂といわれている。拝観受付を通り、地藏堂、十三仏やぐら、旧内海家、薬師堂を拝観する。

十三仏やぐらは、立ち入り禁止となっており、洞の入り口での参拝となる。以前は洞内に入ることができ、神妙さや厳粛さを感じたものだが、今回は残念であった。

しかし、薬師堂は感慨深いものがある。

中尊は、法界定印の掌上に薬壺をもつ薬師如

来、矜持脇侍は日光・月光の両菩薩。そして、眷属の十二神将が左右の壁に沿って6体ずつ祀られている。

天井には竜頭が描かれており、梁牌には、この堂を再建した足利尊氏の銘が見える。

十二神将の戎神は、実朝暗殺の禍から救ったという言い伝えをもつ。

覚園寺は、堂宇や仏像もさることながら、雄

大な自然も満喫することもでき、心身を一新してくれるところだと思う。

#### 鎌倉宮

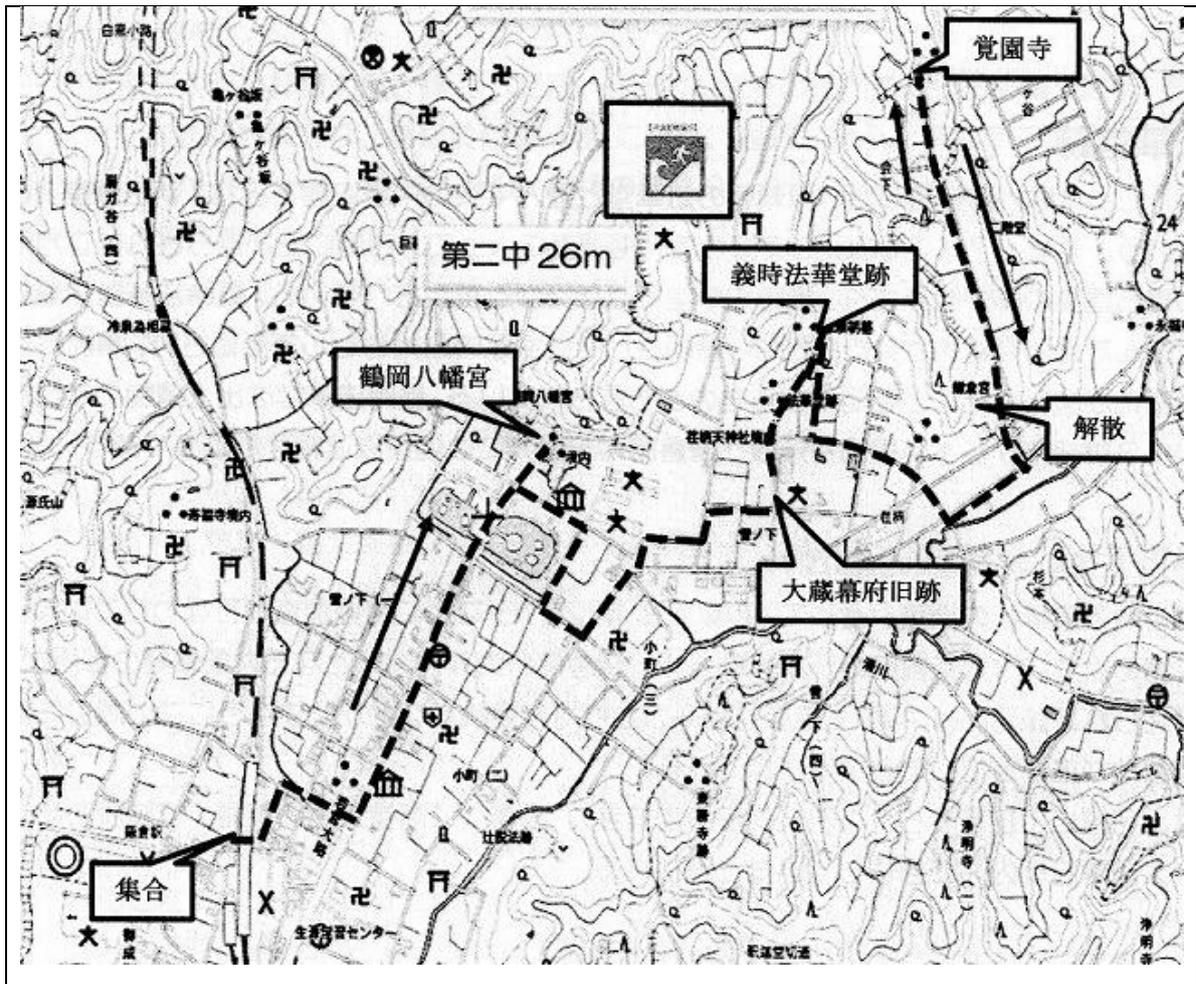
鎌倉宮に戻り、ここで解散となる。大河ドラマ館閲覧希望者には鶴岡八幡宮内の当館まで案内して、探訪終了となる。

#### 【おわりに】

今回は、2年ぶりの各場所を巡っての探訪となった。しかし、前日までの天気予報は裏切られて小雨となってしまったが、約50名の参加をいただいた。鶴岡八幡宮など鎌倉は、何度も訪れた会員も多からうが、源実朝と北条義時に焦点をあてた今回の探訪は、それぞれに新たな発見があったのではなかろうか。

最後に、今回の企画、出発時の班分けでのサポート、各ポイントでのわかりやすいガイド、探訪終了時間の調整など、鎌倉ガイド協会にも大いに感謝したい。

#### 第5回学習会（探訪）コース



## 2022 年度第 5 回学習会アンケート集計

“わ”の会運営委員会(2022.10.14 小雨のち曇り)

「北条義時と 13 人の宿老」

講師：NPO 法人鎌倉ガイド協会

出席者		一般会員	委員	計 (出席率%)	ビジター	合計	アンケート (提出率%)	
	男	31	7	38(41.3)	0	38		37(84.1)
	女	12	0	12(50.0)	1	13		
計		43	7	50(43.1)	1	51	37/44	

### ①講演内容評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	D. つまらなかった	チェック無し
30 名	6 名	1 名	0 名	0 名

- ・堀米ガイドが楽しかった。
- ・大河ドラマと連動して良かった。勉強になりました。
- ・覚園寺が非常に良かった。
- ・ガイドさんの説明が良かった。
- ・堀米氏のガイドが大変良かった。
- ・ガイドの説明がよかった。覚園寺に時間を十分とっていただいた。
- ・大河ドラマを交えながら、関連するいろんな人物の話が聞くことが出来とてもおもしろかった。植物の話もあり楽しかった。

大河に関することをいろいろ知れたので

- ・ちょうど時節に合った催し、覚園寺が良かった。
- ・大河ドラマとリンクして案内してもらい興味深かった。
- ・時間に余裕があり、くわしい説明を聞けました。
- ・義時の経緯、変遷がよく理解出来ました。
- ・大河ドラマとの関連探訪で大変勉強になった。
- ・「実朝の年表」等、ガイドさんが工夫した説明であり良かった。
- ・鎌倉殿の義時、実朝に軸足を置いたガイドさんの説明は興味深く趣がありました。
- ・ガイドさんに知らないことまで教えていただいた。
- ・良かった、鎌倉 13 衆の企画で良かった。
- ・わかりやすく
- ・知識が深く、とてもわかりやすかったです。
- ・北条義時の歴史の道を歩いて興味深かった。ガイドさんが良かった、博識！
- ・非常に楽しい探訪でした。
- ・たいへん良かった、ありがとうございました。小雨のなかだったけど情緒があって良かったです。知らなかった事勉強になりました。
- ・ガイドさんの話し方が早すぎたもう少しゆっくり、理解出来なかった。

- ・特に今回初めて訪れた覚園寺が良かったです。
- ・勉強になりました。
- ・時間が足りない、半日コースでは物足りない、早くランチセットでじっして欲しい。
- ・長嶋ガイドさんの案内で鎌倉をあらためて理解した。
- ・体調不良のためご迷惑おかけしました。

### ②今後探訪で行きたい場所、テーマについて

- ・どこでも
- ・もう一度このコースを願いたい。
- ・横須賀方面
- ・かまくら！ 山城！
- ・鎌倉で普段いけない所
- ・横須賀方面
- ・非常にていねいな説明でわり易くもう一度再訪してみたくなりました。ありがとうございました。
- ・鎌倉、三浦方面
- ・金沢区内

### ③学習会運営評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	D. 良くなかった
26名	8名	1名	0名

※チェック無し：2名

- ・ご苦労様
- ・覚園寺が特に良かった。
- ・ガイドさんの説明が大変良かった。
- ・時間とお終了できたように受け付けから終わりまでよく運用された。
- ・いつもお世話様です。
- ・悪天候にも拘わらず just time で充実していた。
- ・又参加したいです。
- ・鎌倉ガイド協会 説明はわかりやすく大変良かった。
- ・スムーズでした。
- ・ガイドさんの説明もわかり易く、楽しめました。
- ・ありがとうございました。
- ・鎌倉ガイドはやっぱり good!

### ④”わ”の会について、何でもお書きください。

- ・お世話になりました。
- ・ありがとうございました。
- ・年令もの事も考えて実行方
- ・よろしく願います。お世話になります。

## 運営委員代表の意見・感想

今回は、大河ドラマの「鎌倉殿と13人の宿老」のテーマの探訪。NPO 法人鎌倉ガイド協会との事前打ち合わせで、「義時と実朝の暗殺」に絞って説明していただくことしました。行き先も、段葛から実朝暗殺の鶴岡八幡宮、大倉(蔵)幕府旧跡、義時法華堂跡、大倉亭推定地(北条義時亭跡)そして義時ゆかりの覚園寺とポイントを絞ったのが良かったと思います。

小雨の中の探訪でしたが各班の鎌倉ガイドさんの説明も力がいっていたようで素晴らしいガイドに皆様満足されたようです。

特に覚園寺は、初めての方も多くおられたようで、境内の黒地蔵、薬師堂(本尊は薬師如来坐像で鎌倉時代の様式で、その両脇に日光菩薩坐像・月光菩薩坐像が安置され、左右には十二神将立像がまつられておりすべて国の重要文化財)など説明に聞き惚れていました。特に義時と十二神将の戌神将との逸話などは良かったと思います。また、境内の木々も素晴らしいものでもみじの紅葉時はよりいい景色になると思いました。

最後に、企画と案内をしていただきました、NPO 法人鎌倉ガイド協会の皆様にお礼申し上げます。

“わ”の会代表 江口正彦

## 第6回学習会

### 【下剋上と斎藤道三】

編集委員 熊谷信雄

開催日：2022年10月30日（日）

9：30～12：30

会場：横浜市立大学 カメリアホール

講師：東洋大学 文学部

准教授 木下 聡 氏



#### 【概略】

今回の講演内容は、「下剋上と斎藤道三」という内容です。下剋上は南北朝時代から見られる概念だが、一般的には戦国時代が想起される。下剋上とされる事例を通じてその特徴を紹介し、下剋上の代表例として著名な斎藤道三について詳しく見る。前半は下剋上の意味、成功例、失敗例、典型的な人物を紹介された。後半は司馬遼太郎の小説『国盗り物語』の主人公として一躍有名になった斎藤道三の成功事例を紹介された。

#### 【下剋上】

- 下剋上とは下位の者（守護代、それに准じる勢力を持った者）が上位の者（守護）に取って代わる現象をいう。主家を脅かす勢力を持つ守護代・重臣たちが中心で、自分が取って代わる場合や、単に主をすげ替える場合がある。また自分が取って代わろうとして成功した場合や討たれて没落した場合がある。主を殺す事例はさほどなく、多くは追放に留める。
- 応仁文明の乱で全国に動乱が広がる（関東はそれより前に享徳の乱）  
守護代は守護の下に置かれた役職です。守護は幕政に携わる事が多いため、任国を留守にする期間も長くなります。守護は家臣の中から代官を任命して守護代とし、実際の政務に代行させた。応仁の乱では全国の守護大名は京都に集結しているので領国の

主が不在となり、守護代による反乱が頻発し、下剋上の始まりとなる。

#### <主をすげ替えた事例>

- 大内義隆を討った陶晴賢、上杉房能を討った長尾為景

#### <成功例>（守護代、重臣たち）

##### ◆朝倉孝景

- 越前守護斯波氏の重臣、守護代であった。
- 応仁の乱の中で、西軍斯波義廉に属して京都で武勇を表すが、東軍から目を付けられて寝返り工作を受けて東軍に寝返る。
- 孝景は息子氏景と共に越前に戻り、敵対勢力を国外へ追いやり、ついに越前一国を手に入れる。背景に足利義政から直臣にして越前を与える内諾があっ

たらしい。斯波氏はその後何度も越前奪回を図るが、結局朝倉氏が保持し、幕府から領有を認められる。

#### ◆尼子経久

- ・出雲守護代で、守護京極氏の家督争いによる内紛に乗じて、公家領押領や税の徴収を行わず、文明十六年守護代職を剥奪されるが、二年後月山富田城を奪回して支配権を奪取。京極政経は上洛し、ここに経久が出雲の実質支配者。

#### ◆長尾為景（上杉謙信の父）

- ・越後守護代、父能景が越中で一向一揆と戦い戦死した後跡を継ぐ。
- ・永正四年に守護上杉房能、同七年房能の報復に越後を攻めた関東管領上杉顕定を討つ。越後守護には上杉定実をつけ、自身の身分は守護代のまま、ただ息子晴景に將軍義晴一字偏諱を受けるなど將軍直臣となる。
- ・築きあげた基盤は息子景虎（上杉謙信）へと受け継がれる。

#### <失敗例>

##### ◆伊庭貞隆

- ・伊庭氏は近江六角氏譜代の重臣で、貞隆は近江守護代となっていた。
- ・貞隆は政務を取り仕切るが、六角高頼と対立し、一度は没落させるも後に敗北して滅亡。

##### ◆浦上村宗

- ・浦上氏は赤松家臣で備前守護代など務めた。
- ・村宗は細川高国と連携し、後に当主義村を殺害するが、代わりに立てた義村子晴村の裏切りで村宗は死ぬことになる。

##### ◆石丸利光

- ・美濃守護代斎藤妙純の重臣。
- ・守護土岐成頼の末子を担いで妙純と合戦する（船田合戦）も敗北して自害。

##### ◆長尾景春

- ・山内上杉顕定に対して兵を向けるが、太田道灌の活躍で味方は鎮圧され、景春自体も没落。

#### <下剋上の典型例とされてきた人物>

##### ◆伊勢宗瑞（北条早雲）

- ・一代で伊豆・相模二ヶ国の大名となる。
- ・生まれた国も大和国在原・山城国宇治・京都・伊勢国・備中国と諸説有り。現在では幕府政所執事伊勢氏の一族で、備中の所領を本拠地とする備中伊勢氏であることが明らかになっている。

##### ◆松永久秀

- ・世に下剋上・裏切りの代名詞と名高い久秀だが、実際はそうでない。後世の人によって語られる様々な逸話により、現代では梟雄・反逆の徒とされた。自身・出身はいまだに不明だが、摂津五百住と関係が深いという。
- ・信長に何度も背いたと言われるが、実質は最後の一度のみ。

##### ◆斎藤道三

- ・一代ではなく、二代での国盗り。父が土岐重臣の末席まで盛り上がり、道三も国内の紛争・合戦の中で地位を上昇させていく。

#### 【斎藤道三編】

##### <父新左衛門尉について>

- ・従来流布していた説  
元僧侶で、油売りをしていた松波庄五郎が美濃にやってきて長井氏家臣となり、西村勘九郎と名乗る。部屋住まいだった土岐頼芸を家督へと押し上げ、勲功を上げていく中で長井、ついで斎藤苗字へと成り上がり、その途中で頼芸から愛妾三芳野を下げ渡してもらっている。そしてついに頼芸を美濃から追い出して、美濃国主へと上り詰めた。  
ここに道三は下剋上を果たした。

- 現在の通説  
実際には元法華宗（日蓮宗）の僧侶で、還俗して牢人し、美濃に来て西村と名乗り、土岐家老長井氏まで上り詰めたのは、義龍祖父新左衛門尉であり、道三はその子であることが、六角承禎条書写（「春日氏所蔵文書」）により明らかである。

#### <新左衛門尉の活動とその死>

##### ◆活動

- 長井長弘と新左衛門尉は、大永五年の土岐頼武・頼芸兄弟の家督争いの中で、頼武方の守護代斎藤新四郎から離れて頼芸方につき、頼芸に勝利をもたらした。  
⇒これにより二人は斎藤重臣から土岐重臣へとランクアップ
- 大永八年に幕府から奉公衆佐竹氏の所領への押妨を止めるように命じられる。頼芸・守護代斎藤又四郎だけでなく、新左衛門尉にも直接命令が伝達。  
⇒幕府にもその名が知られる。

##### ◆死去

- 天文二年（1533）に、新左衛門尉の後身と見られる長井豊後守が重病になる。同年二月には長井長弘も死去している。

#### <道三の出世と国盗り>

##### ◆家督継承

- 天文二年に父新左衛門尉が死去し、長井景弘と連署して文書を出し初め家督を継承。長井氏の持っていたらしい稲葉山城を手に入れる。

##### ◆斎藤苗字へ

- 天文四～五年にかけて、土岐頼充が土岐家督奪還を狙って、越前朝倉・近江六角の協力を受けて美濃国に乱入。この争乱の中で、道三は出家すると同時に「斎藤」苗字になっている。
- 頼芸・頼充の戦いは天文八年初めに

終結。道三は入道から俗体へと戻り、斎藤氏にふさわしい「利政」の名を用いる。

- 土岐家中で守護代斎藤利茂、頼充代の斎藤彦九郎につぐNO3の地位へ上昇。  
<長良川の合戦までの経緯>
- 天文十三年九月土岐・織田・朝倉連合軍が西濃北部から美濃へ攻め入り、稲葉山城まで押し寄せたが、道三は大勝した。天文十五年に頼芸と頼充との和議を締結して、頼充は大桑城に戻る。道三の娘や頼充の妻となる。後の濃姫の可能性が高い。
- 天文十六年に頼充は24才で死去。天文十九年道三は頼芸を美濃から追放。頼充の早い死と、頼芸の政務への関与のあり方、それまでの道三の軍事的実績と領主達と築いた関係の深さが、道三に国盗りを決意させたのではないか。
- 道三と義龍とが対立することになった主要因は家督をめぐる問題。

##### ◆<長良川合戦>

- 弘治二年（1556年）斎藤道三とその長男斎藤義龍との間で長良川沿いにて激突。
- 義龍方に一万余、道三方に約二千と圧倒的な違いで義龍方勝利。義龍は5年後に急死。義龍の子達興は織田信長の美濃攻めで戦死。

##### 【先生のまとめ】

- 道三の父新左衛門尉は僧侶から還俗した、ただの一牢人から大名重臣にまで上り詰めたのは、並大抵のことではなかった。
- その地位を継承した道三は、父同様に戦乱の中で軍事を中心に勲功を挙げ続け、土岐家臣団の中でもさらに地位を上昇させていき、斎藤氏の苗字を与えられ、さらには当主の舅にまで上り詰める。
- さらに頼充の早世をきっかけに、道三は事を起こし、土岐・斎藤一族の主立った者を暗殺し、ついには頼芸をも追放した。かくして二代で美濃国主にまで上り詰めたが、道三も息子への対応をミスし、それが自身の死を招くこととなった。

【感想】

道三の美濃乗っ取りから、美濃斎藤氏の時代は三代で数十年しか続きませんでした。やはり因果応報。戦国時代、下剋上は世の常と言いますが、裏切り・乗っ取りで得たものはそう簡単にはうまくいかず、長続きしないのだと思い知らされました。



## 2022年度第6回学習会アンケート集計

“わ”の会運営委員会(2022.10.30 晴れ)

「下剋上と齋藤道三」

講師：木下 聡 氏

出席者		一般会員	委員	計(出席率%)	ビジター	合計	アンケート(提出率%)
	男	54	6	60(65.2)	0	60	
	女	12	0	12(50.0)	0	12	
計		66	6	72(62.1)	0	72	41/66

### ①講演内容評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	D. つまらなかった	チェック無し
18名	20名	3名	0名	0名

- ・資料が豊富でわかり易く、ありがたかった。
- ・伊勢宗端、齋藤道三の新しい研究成果など紹介され良かった。話が聞きとりやすかった。
- ・下剋上の実態について知ることができて、たいへんよかった。
- ・下剋上と齋藤道三、前半はむつかしかったが、後半は良く分かりました。
- ・説明が分かりやすく、説得力がある。俗説ではない道三の実像が明らかになり大変興味深かった。
- ・「下剋上」についてよく分かりました。道三の顔が完璧に本気心になって想像してました。楽しかったです。
- ・通説等より一步掘り下げた話が理解出来た。人物の経緯がわかった。人間関係(親子)の複雑な状況・齋藤道三の生きざまがよくわかった。
- ・あまり勉強してない歴史の題材を講義していただき大変良かった。
- ・下剋上のトップランナーと言われている齋藤道三でさえ一発逆転の大勝負にかけたわけではなく、結果一国の主となったことがよくわかった。道三以外の戦国武将もまぐれでその地位についたわけではなかった事は想像できる。小説と史実は大きく違うものなのであろう。
- ・道三のことが少し分った気がする。(機を見る眼が、すごいから戦にも強い)
- ・下剋上への認識が変わった。主人を殺す事が無かった、追放のみ。
- ・話がわかりやすい。
- ・書物などでよく知っている事柄であるが、改めて新事実を含めて勉強することが出来面白かった。岐阜は家内の故郷でもあり、又10年程仕事をした事もありなつかしく思い出しました。
- ・齋藤道三に関する御自身の分析についての話もさることながら、一般で云われている事とは、若干異なるイメージでの「下剋上」の時代の倫理感が面白かったです。
- ・終始力強い説明で分かりやすかった。
- ・説明分かりやすい、声が大きい。
- ・豊富なレジメに沿って、マイク音もはっきり大きな声で聞き散りやすく、分かりやすかった。
- ・わかりやすかった、声も大きい。
- ・道三の下剋上イメージから努力の人であった。
- ・全体のまとめ方がうまかった。下剋上の実体が。理解出来た。

- ・切り口がよい。斎藤道三は北条にまさる“人殺”？
- ・受け取り方の自身の知識がもう少し有れば、もっと身についたものと思う(基礎知識が必要) 中島(祐)
- ・道三に国盗りを決意させた状況がよく判りました。
- ・声が大きく聞き易い。人気の戦国期の英雄達の関係性出自等興味深いお話であった。フェイクニュースと真説入り乱れての解説は醍醐味あり。
- ・レジメに沿った講演で経緯が良く判った。何時の時代も家督相続がポイントになり事件が起きる事が良く理解出来た。
- ・斎藤道三の動きが良く判った。
- ・道三中心に下剋上の実際がかなり理解を深める事が出来た。
- ・道三の「国盗り」のプロセスが分った。
- ・伝説とは云え？ 鎌倉、金沢と道三の関わりをもう少し聞かせて欲しかった。
- ・小説ベースの史実と違う歴史の流れは理解出来た。義能の蜂起理由、経緯はもう少し詳しく聴きたかった。
- ・配付資料とスクリーンの表示は良く。マイクの声は聞こえも良いのに理解しにくい所があった。
- ・人物関係が今ひとつ解りづらかった。

### ②木下講師に希望する講演テーマについて

- ・室町幕府と外様衆と奉公衆
- ・室町幕府の外様衆と奉公衆
- ・戦国大名の政治システム
- ・北条実時を中心とした金沢北条氏について史蹟を含めて講演をお願い出来たらと思います。
- ・松永弾正久秀、三好三人衆、朝倉、浅井氏等
- ・室町幕府全般、文化 南北朝の争い
- ・斎藤氏 4代
- ・光秀反乱の話
- ・室町時代の鎌倉、金沢
- ・一回限りの講演では、消化不良で、再度切り口を変えた講演をお願いしたい。

### ③学習会運営評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	D. 良くなかった
12名	23名	1名	0名

※チェック無し：5名

- ・スムーズにはこんだ
- ・下剋上とされる多数は、特徴が紹介され、そして代表とされる斎藤道三に絞った後半に興味を感じられた。
- ・コロナに考慮され運営スムーズ
- ・コロナ対策をした中でゆったり受講出来た。
- ・講演者のマスク無し講演で話の内容が良く聴きとれた。(今後もマスク無しとして欲しい)
- ・粛々と進行していた。
- ・ご苦労様です。

- ・会場の広さ、コロナ対策が十分
- ・第1部時間を〇〇時から〇〇時までと表示していただけるとわかりやすいと思います。
- ・テーマの選定
- ・いつもありがとうございます。今回も楽しい講演でした。
- ・予定時間通り運営されたこと。
- ・いつもありがとうございます。
- ・戦国大名の領国経営について深く理解した。北条得宗家との比較

④“わ”の会について、何でもお書きください。

- ・お世話になります。
- ・来期学習会計画を楽しみに拝見しました。
- ・役員の方お世話になり有難うございました。
- ・代表以下役員の方々のご苦勞に感謝します。

運営委員代表の意見・感想

今回は、講師木下氏の出身地である岐阜の齋藤道三についての講演をお願いし、「下剋上と齋藤道三」というテーマで講演していただきました。

講演は、下剋上続いて道三の父新左衛門尉と道三の二代にわたる国盗りについてであります。

はじめに、下剋上の成功例の人物と失敗例の人物についての説明。次に下剋上の典型例として伊勢宗瑞(北条早雲)、松永久秀、齋藤道三の名をあげられ、戦国時代の下剋上とはどんなものかが解ったような気がした。

二代にわたる国盗りについては、国盗り物語などでの通説と史実にあった国盗りが違っており、自分なりに整理し直すことが出来た。父新左衛門尉、齋藤道三は、狙って国盗りを行ったのではなく、置かれた立場を真面目にこなしている内に出世していき二代にわたる国盗りがよく解りました。

また、息子義龍との出生に関する行き違いや息子への対応をミスし、道三は息子に討ち取られてしまうことになった。

充実したレジュメとそれに沿ったはっきりした口調での説明で大変聴きやすく理解しやすかったです。

“わ”の会代表 江口正彦

2022年度 第7回学習会

## 『北条氏の滅亡と徳川氏の江戸入府』

会報編集委員 斧原 良一

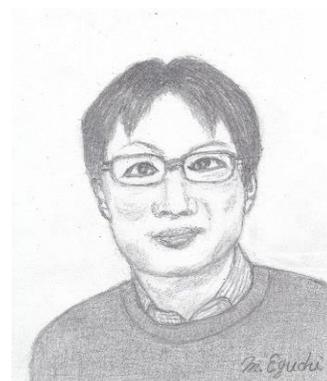
開催日：2022年11月27日（日）

9：20～11：40

会場：横浜市立大学 カメリアホール

講師：青山学院大学 文学部 史学科

准教授 谷口 雄太 氏



### 【概要】

#### はじめに

「今回の学習会は、2023年の大河ドラマにも関係するテーマです」と口火を切った谷口講師は中世史を専門に研究している。“わ”の会では2018年から講師に招き、今回は4回目で、関東歴史編の最終回、締めくくりの講演とのことだった。北条氏が1950年に秀吉により滅亡し、代わって徳川氏が関東を治めたが、家康はなぜ江戸を拠点に選んだのか。最新研究をもとに、歯切れのよい口調でテンポよくお話しいただいた。

#### 【歴史書と歴史的事実】

鎌倉も江戸も頼朝や家康が入府する以前は「さびれた漁村だった」と公式歴史書に書かれている。一般にはこの認識が広く普及しているようだが、研究が進むにつれて、この説明は創業者の業績を大きく見せようとする意図が働いたものであることが明確になってきた。

『吾妻鏡』には、「鎌倉はもともと辺鄙なところなので、漁師や農民以外、居を定めようというものは少なかった」とあるが、近年の発掘調査で奈良時代の郡衙（ぐんか：郡役所/交通の要衝）の遺構や天平五年の木簡が見つかり、また頼朝の父義朝が館を構えていたことも記録にあって、地域の要衝としての一面が明らかになっている。

『吾妻鏡』は「頼朝を神格化し、頼朝や北条はすごいということをアピールすることが目的で書かれた」と明快に話され、では江戸はどうであったのかという問いかけで、講演の本論が始まった。

#### 【秀吉の北条攻めと禁制】

北条氏は1580年に織田信長に服属したが、本能寺の変後に断交し上野方面へ勢力を拡大した。1589年6月には真田氏との所領問題で、秀吉に裁定を受けたが、同年10月北条氏は真田氏の城を攻撃し、秀吉の私戦禁止の命令に違反した。初めのうちは信長も秀吉も北条氏をつぶす気はなかったようだが、こうなってはやむを得ない。翌年3月1日、秀吉は京都を出発、4月3日には小田原に到着。6月23日には八王子城を落城させ、7月5日には小田原城が落城する。戦というと、弓矢・鉄砲・槍などでの実力行使を想像するが、これは敵味方の兵だけでなく近隣の寺や住民にも多大の損害が生じる。大将はできるだけ血を流したくない、兵を損耗したくないと考える。兵自身も住民たちもみな死にたくはない。それを可能にする“禁制（きんぜい）”というものがあった。これは、幕府や大名・国人らが、寺社・諸人に対し、保護と統制を目的として、掟や禁止

事項を通知するために出した文書であるが、一方で「安全を買いませんか？ これを買えば安全を保障しますが、買わなければ攻撃しますよ」と、戦わずして平定するための方策だった。

八王子城攻めの際の秀吉の“禁制”が高乗寺文書として残っており、この時の経緯も高乗寺伝略記として残されている。その文書によると、「天正 18 年（1590 年）4 月、秀吉より避難所の御朱印（禁制）を 2 通買い、総門と堂が峰に張ったところ、あちこちから多くの人が入り込み仮設の避難小屋を建て、その数 2325 棟にもなった。」と書かれている。

さてここからが興味深い。寺は「禁制 2 通に対し永楽銭 44 貫（440 万円）払ったが、小屋銭として 1 棟につき 40 文を取ったので 93 貫（930 万円）の収入になった。寺はその差額 49 貫で、山門と十六羅漢を新造した」という。

さらに驚くのは、天正 18 年 10 月の秀吉の朱印状（通達）があり、「禁制の礼金の額について、大所の場合で 3 貫 200 文、中位の所で 2 貫 200 文（22 万円）と定めており、取次銭（中間マージン）は取るべからず」と指示している。

この“禁制”は秀吉の家臣が売りに行くのだが、八王子の場合では、1 枚 220 万円で売られており 200 万円ものマージンを取っていた。

秀吉は、武士団がこのようにして資金を蓄え、秀吉に反抗することを恐れたのかもしれない。

秀吉もその家臣も、またその家臣から禁制を買う寺も、なんとしたたかに振舞っていることか。学校で学んだ歴史では教えてもらえなかった生きた人間のたくましさに驚くばかりである。

### 【徳川氏の江戸入府】

さて、天正 18 年 7 月 5 日に北条氏を滅ぼしたあと、秀吉は全国制覇のために江戸を經由して奥羽平定へと向かう。秀吉は既に東国の支配・政策を、実力があり忠実な部下であった家康に任せ、江戸への入城を命じていた。秀吉は、関西を豊臣が支配し、家康が関東を統治する 2 極体制で全国を治める構想だったようだ。家康は、以前から関東・奥羽との関係が深かった。さて家康入府以前の江戸

はどんなところだったのだろうか。

まず 1457 年、関東管領上杉氏の家来太田道灌により江戸城が築かれ、家康が入府する 150 年も前から城があった。1476 年のある僧侶の記録に「江戸湊には関東はもちろん全国から物資が集まり日々市をなしている。浅草にも小さな城と湊があり、政治都市、軍事都市、経済都市として栄えていた」とある。さらに品川湊（関東最大の港）まで人家が続き、城はないが経済が発展した商人の都市だった様子が書かれている。当時、大量物資の運搬は船であり、江戸は東日本の海上交通の一大拠点であって、良い場所であることは広く知られていた。

時代は下り、小田原を拠点とした早雲（伊勢宗瑞）に始まった北条氏は、次第に勢力圏を広げ 3 代氏康の時代には武蔵、下総・上野の一部を押さえ、1524 年に江戸城を奪取し、有力な支城とした。1583 年には 4 代当主氏政（当時隠居）が江戸へ入城する。北条氏の関東支配は拡大し北は上野・下野、東は上総・下総・常陸の一部に及び、関東の河川・水上交通の基点であった江戸が東国支配の中核的拠点になった。

一方陸上交通でも変化があった。15 世紀後半に起こった享徳の乱以後、鎌倉の地位低下に従い各勢力の拠点が関東各地に分散していった。それに伴って鎌倉を中心に整備されていた街道が大きく変わっていった。街道は小田原から武蔵・上野西部を通る「山の辺の道」、江戸を起点に小山を通る「川越街道」などが主要道となり、さらに新たな街道が江戸を起点として整備されていった。

北条を滅ぼした秀吉は、江戸からこれらの街道を使って宇都宮・会津へ向かおうとしていた。

このように江戸が古くから交通の要衝であったにも拘らず戦国時代の江戸は草深い武蔵野の一角にある田舎町とか、芦原の湿地の中に建つ城というイメージが広まっていたのはなぜか？

やはり、江戸幕府を開いた家康の偉業をより大きく印象付け神格化するために、歴史書を書いた家康の家臣たちは、江戸はゼロから家康が作ったとすることにしたかったのだろう。

さて、家康は豊臣の関東政策で江戸入城を命じら

れたのだから、大坂夏の陣（1615年）で豊臣が滅び、大阪が空白になったとき、政治の中心を大坂へ移すことも選択肢のひとつだったはず。その証拠に1615年の島津義弘の書状、1626年の小堀遠州の書状にも大阪引っ越しの話題がある。それについて、家康、秀忠は三河生まれであったが三代家光（1623年から将軍）は江戸っ子であり、大阪への思いが少なかったのではないかと話された。徳川は、中世の段階で東国支配の拠点となっていた江戸を、上杉氏・北条氏の遺産を継承し、拡大し、インフラ（水道や火除け地等）を整備して、世界最大級の100万都市に発展させ、現在

の首都東京の基礎を作った。

### おわりに

歴史書は、勝者によって作られる。頼朝も家康も業績を大きく見せるために、それ以前は鎌倉も江戸もさびれた土地であったように書かれる。最近の戦争プロパガンダも同じだが、情報は鵜呑みにせず多角的に見て判断する必要があると改めて感じた。

最後に、谷口先生の分かり易く面白い講演に感謝するとともに次回の講演を楽しみにしています。



## 2022年度第7回学習会アンケート集計

“わ”の会運営委員会(2022.11.27 晴れ)

### 「北条氏の滅亡と徳川家康の江戸入府」

講師：谷口 雄太 氏

出席者		一般会員	委員	計(出席率%)	ビジター	合計	アンケート(提出率%)	
	男	58	6	64(69.6)	0	64		52(68.4)
	女	16	0	16(66.7)	2	18		
計		74	6	80(68.9)	2	82	52/76	

### ①講演内容評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	D. つまらなかった	チェック無し
34名	15名	3名	0名	0名

- ・良く理解出来ました。
- ・声も聴き取り易く、内容も良かった。歴史書が勝者の視点で語られていることを改めて理解しました。
- ・家康が江戸に入った理由がよくわかりました。関東における江戸の位置づけと重要性が理解できました。
- ・谷口先生の講演は毎回明確ではぎれも良く、語りも熱く、楽しく聞かせてもらっている。今回は八王子の安全代のお話がおもしろかった。
- ・徳川家康の頃の江戸は東日本の海上交通の一大拠点であり、陸上交通面でも重要な場所であったし家康以前の扇谷上杉氏の時代からの江戸がそれなりの場所であり、家康は軍事面、経済面、政治面で優位であることを認めていた事が分かりました。
- ・話が具体的で分かりやすい。内容が興味深くて面白かった。新しい話がきけた。熱量がすごい。
- ・一般に伝わっている、家康入府前の江戸の状態と実体とは違うことが良く判り神君美化への意図が明確に理解出来た。秀吉が江戸入府を命じた意図・状況が良く判りました。(水陸交通の要衝、東国支配の拠点)
- ・秀吉の禁制について、戦火の中でも寺や領民たちが強く、したたかに生き抜いていたことがリアルな(本当にリアルな!)数字から分り大変興味深かったです。やはり信頼できるのは会計記録なのだなと思いました。また、なぜ品川や浅草でなく江戸が選ばれたのかについても腑に落ちました。
- ・分かりやすい。声大きい。歯切れがいい。
- ・よどみなく、詳しく分りやすく講義されました。
- ・レジメの使い方が上手で話の進め方もとてもうまかった。
- ・江戸がなぜ中心になったか? 今回の納得、たいへん面白かった。八王子の高乗寺も具体的で感動、大変良かった。
- ・テンポよくお話ただけて聞きやすかったです。
- ・戦国時代から家康入府までの江戸の状況が分り「眼からうろこ」の話題であった。
- ・内容がとても分り易かった。
- ・解りやすかった。
- ・テンポがこち良い。
- ・戦国期の関東の状況がかなり分かり易い説明で興味深かった。

- ・「禁制」の売買金額の算出については非常に興味のある話だった。
- ・特に「秀吉朱印状」について
- ・東京(江戸)の発展の変遷が理解出来た。家康の入府以前に基礎が出来ていた。
- ・禁制を寺に売り付けた話をはじめ聞いて。大変おもしろかった。家康が小田原陣後に江戸に入り関東、東北支配のために江戸に入るよう決められた理由がよくわかった。
- ・歯切れの良い語り口で非常に有意義な講演でした。
- ・江戸の湊として機能を知ることができて良かった。
- ・大変わかりやすく、具体的なお話で興味があり非常に学習できました。ありがとうございました。
- ・わかりやすく良かった。
- ・わかりやすく興味深く知らないことを話してもらった。戦国時代の安全の値段など。禁制。
- ・江戸の前の歴史がよく分った。
- ・聞きとりやすいし分りやすかった。
- ・「安全の値段」についての説明が大変興味深かった。全体として、すばらしい講義だったと思います。ありがとうございました。
- ・秀吉の朱印状の値段と現場での値段の違いの解説は、興味深かった。その状により庶民の平和が確保され寺の山門・羅漢の新造の費用に売られた経緯はおもしろい。(少し話のテンポが速かった)
- ・権威付の歴史と史実の差が解った事。交通の基点とした都市の流れ。
- ・わかりやすかったが、それが過ぎてくり返し(3回以上)が多すぎると感じました。
- ・前半の秀吉よりの御朱印の内容が「へえ……そうなんだ？」位の初めて知る内容でした。家康が江戸を選んだ理由を詳しく説明されて、納得できました。
- ・大変詳細な事まで研究なさっている様子。音声が少し聞きにくかった。
- ・知らなかった話が多く勉強になった。
- ・資料が分りやすい、又話も分りやすかった。話し方をもう少しゆっくりした方が聞きやすい。
- ・先生のお話がわかりやすく面白かったです。史実を正しく認識するために文書等資料を読み解くことの大切さがわかりました。
- ・禁制を利用した秀吉のしたたかさ。秀吉の天下統一への経緯わかりやすかった。
- ・自信を持った説明力が大変良かった。
- ・高乗寺伝略記写の説明。最後のまとめ。
- ・北条氏……徳川氏の江戸入府を受講すると 1457(長禄元)大田道灌が造城した江戸城の再建と築城を望む気持ちになった。
- ・北条氏の滅亡と徳川氏江戸入府については項目をひとつに絞って頂きたい。もう少し掘り下げて説明すべきと思います。

## ②谷口講師に希望する講演テーマについて

- ・信長時代に厩橋(前橋)を東国支配の中心とした理由。
- ・谷口先生何回でもお願いします。
- ・足利氏について
- ・室町將軍家の全国統治について
- ・足利將軍家の御三家のうち、特に吉良家について
- ・また是非再講演をお願いしたい
- ・八王子高乗寺文書の内容が面白く分った。
- ・中世を前期～後期まで細かくお願いします。

- ・足利将軍と御三家
- ・太田道灌
- ・中世、室町時代の文化、政治
- ・織田信長の重鎮、滝川一益の関東での動きについて。北関東地域の中世。小田原の開城・後北条氏のその後等
- ・武田信玄(とくに経営者としての側面)について
- ・「北条氏の滅亡」についてききたいです
- ・来年の著書の講演を期待しています。
- ・新時代における金沢について
- ・中世の話であれば何でも良いので毎年講演していただきたい。

### ③学習会運営評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	D. 良くなかった
29名	17名	1名	0名

※チェック無し：5名

- ・午前中の早々の開催ご苦労様です。日曜日を有効に活用できるのでこれからも希望します。
- ・広さ、コロナ対策、十分です。
- ・対面講演は、やはり良いなと思います。
- ・スムーズな運営で、気持ちよく過ごさせていただいています。
- ・テキパキとして理解しやすかった。
- ・いつも運営がすばらしい段取りだと思っています。これからも宜しくお願いします。
- ・いつもいつも運営ご苦労様です。
- ・会場の広さ、コロナ対策が十分
- ・スムーズ
- ・いつも有難うございます。
- ・いつもありがとうございます。今回も楽しく拝聴しました。
- ・マスクなし講演部分は聴き易かった。
- ・無事な運営、ご苦労様です。
- ・役員の方々のご尽力に感謝致します。
- ・いつもご苦労様です。
- ・スムーズな流れ
- ・剥がれてしまった残念！

### ④”わ”の会について、何でもお書きください。

- ・”公開歴史講座、カメラアホールでいつも気持ちが若返る、感謝です。
- ・いつもありがとうございます。
- ・来年度もよろしくお願いします。
- ・とても面白いし、タメになる事を学べるのでうれしいです。
- ・お世話になります。

## 運営委員代表の意見・感想

今回は、当初予定では6月21日(日)を予定していましたが会場の確保が出来ず調整の結果講師谷口先生のご協力で11月27日(日)の開催になりました。

今回は2018年からずっとやっていただいた谷口講師と木下講師の東国史の最終回として「北条氏の滅亡と徳川氏の江戸入府」のテーマで締めくくっていただきました。

講演は、前半を北条氏の滅亡(秀吉の襲来)、後半を家康の江戸入府という内容の2部構成で講演され、メリハリのある説明で聴きやすく、大変解りやすいものでした。

秀吉が京都を出発し、相模小田原までの行程と小田原城攻めで八王子城落城そして石垣山一夜城を造りついに不落の小田原城が落城。秀吉は北条を敵対していなかったが、北条が秀吉の惣無事政策違反(私戦禁止の方針に違反)で秀吉の襲来となった。このことは秀吉が何故小田原城を攻めた事が良く解りました。

又、当時の秀吉の禁制で安全政策とその費用についての話で、羽柴秀吉禁制(高乗寺文書)、高乗寺伝略記写(高乗寺文書)、羽柴秀吉朱印状(京都市本法寺文書)の存在でその安全に関する費用とそれに関与した高乗寺のしたたかさが良く解りました。

徳川氏が江戸に拠点を作るまでですが、何故、徳川氏が江戸に入ったのかという事です。元々江戸とはどのようなところだったかは、一般的には葦にまみれた湿地であったといわれている。又同様に頼朝が鎌倉を選んだのか、鎌倉も吾妻鏡には「鎌倉は元々辺鄙なところなので、漁師や農民以外、居を定めようという者は少なかった」(治承4年12月12日条)と記されている。

しかし江戸は、もともと海上交通及び陸上交通の重要な拠点でもあったようである。

このように新しい支配者を賞賛するような記録が作成されることで、それ以前のこと異なっていることが理解できました。

相変わらずテンポのいいお話でこれからも講演を依頼したいし、来年度の『中世の東国と西国』のテーマも楽しみです。

“わ”の会代表 江口正彦

## 『寺社を巡る会』活動記録

令和4年度第6回～第8回

## 令和4年度

## 第6回 鎌倉武士（もののふ）たちも歩いた塩の道

開催日：令和4年10月6日（木）

コース：大道中学校前バス停（鼻欠け地蔵）～朝夷名切通入口～小切通～大切通～朝夷名三郎の滝～上総介屋敷跡～大刀洗の水～光触寺（塩なめ地蔵）（昇堂）～大江広元邸跡～十二所バス停（解散）

前日より降り続く雨のため中止

## 第7回 悲運の御家人・梶原景時

開催日：令和4年11月3日（木）

コース：湘南モノレール大船駅～湘南深沢駅～等覚寺（昇堂・拝観）～梶原一族の墓～御霊神社～仏行寺～源太塚～湘南深沢駅（解散）

参加者：24名

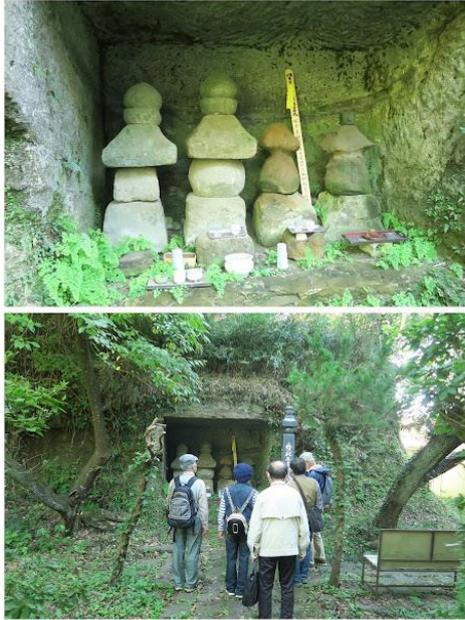
今年一番の秋晴れ、気温は24℃まで上がり小春日和の探訪となった。湘南モノレール大船駅に集合、湘南深沢駅まで移動して、大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の一人、梶原景時ゆかりの史跡を巡った。

湘南深沢駅から数分歩くと等覚寺の山門が見える。等覚寺は初め御霊神社の近くに建てられたが、明治6年境内に訓蒙学舎（現深沢小学校）が建てられ現在の地に移された。創建は応永年間（1394～1428）、山号の休場山は景時がこの地を通った時ここで休んだからと言われている。昇堂し拝観。立派な内陣にはご本尊木像不動明王立像、木像虚空蔵菩薩、弘法大師坐像などが並ぶ。脇陣の出世子育て地蔵尊は出生・出世にご利益があるとして知られ、壁には子供を授かった方の多数の写真が貼られていた。山門は茅葺の薬医門である。薬医門は屋根の中心の棟が前後の柱の中間よりやや前方に来る構造。名前の由来には、患者の出入りを楽にした医院の門という説もあるが、諸説あるようだ。境内には北条一族供養塔がある。州崎古戦場跡から出土した戦死者の供養塔で五輪塔、宝篋印塔などが祀られている。



（等覚寺山門＝茅葺薬医門）

次は深沢小学校内にある梶原一族の墓へ。梶原景時の先祖である鎌倉権太夫景通が住み梶原氏発祥の地と考えられている。裏山のやぐらに梶原景時と嫡男影季ら4人の墓といわれる五輪塔が並んでいる。この墓は供養塔と思われるが材質や様式などから鎌倉時代のものとされる。梶原景時・影季ともに頼朝に仕え篤い信任を得ていたが、頼家時代に御家人66人の「景時弾劾状」により鎌倉を追われる。上洛の途中、駿河の国で周辺の武士らに襲われ最後梶原山で自害した。



(深沢小学校内 梶原一族の墓)

深沢小学校を出て学校の周りをほぼ一周すると御霊神社に着く。梶原景時が建久元年(1190)再建整備したとされる。先祖である鎌倉権五郎影政を祀る。参道には明神鳥居が2基、狛犬は日露戦争凱旋記念として奉納されたもの。境内の五輪塔のうち一基に建武元年(1334)の銘がある。この文字だけ何故か明確に読み取れる。

梶原地域から笛田地域に歩いていく途中に、稲刈りを済ました田圃があった。最近では田圃を見ることが自体が貴重な体験である。

さらに歩き仏行寺へ到着。ここの山門も薬医門である。鎌倉を父景時とともに追われた梶原源太影季は駿河の国で自害した。悲しんだ妻の信夫もこのあたりで自害した。村人は霊を慰めるためにこの地に仏行寺を建てたと伝わる。本堂裏に庭園

があり裏山に続く190数段の階段を上ると円墳状の源太塚がある。源太影季の片腕が埋められているという。妻のしのぶ塚も源太塚と向かい合っていたが、土地造成のため鎌倉山のバス停近くに移された。



(仏行寺 源太塚)

悲運の御家人・梶原景時は石橋山の戦いで源頼朝の窮地を救ったとされる。御家人に取り立てられ侍所別当などを務める。一方で当時の東国武士には珍しく教養があり、和歌を好み、都の貴族との係りもあった。頼朝の寵臣として権勢を振ったが、頼朝の死後に追放され一族とともに滅ぼされた。かつては、源義経と対立し讒言によって人を陥れる悪人イメージを持たれていた。しかし近年は、教養があり、主君に忠実で事務能力に優れた官僚的人物との評価が定着しつつあるようだ。

天候にも恵まれ絶好の探訪となった。今日2名の新会員が初参加した。今年度の新入会員は既に6名、大河ドラマの影響だろうがやはり鎌倉の人気は高い。

(横山美智男 記)

## 第8回 頼朝と鎌倉歴史文化交流館

開催日：令和4年12月1日（木）

コース：JR鎌倉駅～（寿福寺）～源氏山公園～銭洗弁財天宇賀福神社～佐助稻荷神社～  
鎌倉歴史文化交流館～鎌倉駅

参加者：26名

曇り空のなか、最初と最後に多少の雨に降られたが、ますますの天候だった。

まずは寿福寺をめざして歩くと、途中で教会があった。実は鎌倉の教会の数の密度は長崎より多い。鎌倉には隠れキリシタンが多かったため、明治になって各教派が鎌倉に入った結果のようだ。

寿福寺の巽の方角を守っていた巽神社を経て、寿福寺に着く。1992年8月に建てられた源実朝生誕800年の記念碑が総門の右側にあった。すなわち、生まれたのが1192年。昔覚えたイイクニツクロウ鎌倉一幕府の成立の年（今は1185年が有力だそう）。実朝の歌によく出てくる千鳥と波が描かれている。寿福寺にある北条政子と実朝の墓と言われている五輪塔は、江戸時代は頼家（寿福寺開基）と栄西（寿福寺開山）の墓と言われていた。時代によって変わってきている。

参道を経て、源氏山に登り始める。男5名、女3名の我々の班は、階段ではなく、山道を選択した。最初の岩の間を抜ける急登を全員が登り切ると、皆のなかから拍手が起こった。しばらく登って、紅葉に染まり始めた鎌倉の街が一望できる場所があった。イチヨウの黄色が鮮やかである。実朝はたくさんの歌を詠んでいるがイチヨウの歌は一首もないそうだ。すなわちイチヨウはそのころ鎌倉にはなく、今あるイチヨウは4～5百年の樹齢ではないだろうか、とのこと。



（険しい山道を抜けて）

扇谷上杉氏の家宰であった太田道灌の墓が中腹にある。今の英勝寺のあたりに太田道灌の館があった。英勝寺は太田道灌の血筋をひき徳川家康の側室となった「お勝の方」と呼ばれた英勝院が建てた寺。英勝院は水戸家初代藩主徳川頼房の養母となる。英勝寺は、江戸時代に大いに栄えた寺であった。

黄色と赤の紅葉が綺麗な所に差し掛かる。「楓はカエルの手のようだったので万葉の時代には『カエルデ』と言った。それが『カエデ』となっていった。また、緑の葉から黄色や赤に変わる様子を『モミスル』と言った。そこから、色が変わった葉を『モミジ』と言うようになった」とのこと。



（源氏山公園 紅葉）

源氏山の頂上には頼朝の像が立っている。その下ったところに大きなクスノキがあった。樹齢は100年以上経っているかと思っただ、実は80年ぐらい。クスノキはもともと西国の木であり神奈川県には全くなかった。鹿児島県人である初代県知事がクスノキを植えることを推奨したため、公園や学校にたくさん植えられた。

次は銭洗弁財天。頼朝の夢枕に立った宇賀福神が、西北で仙境に涌く霊水で神仏を祀れば、人々は信仰心を持ち国内も平穏に収まる、と告げた。



(錢洗弁財天宇賀福神社 錢洗いのザル)

頼朝は泉を発見し宇賀福神を祀った。五代執権時頼朝が、錢をこの水で洗えば子孫は繁栄する、と言った。それ以来、錢洗いで詣でる人が絶えない。宇賀福神は、顔は老人、体は蛇。今の神社の名前は正しくは錢洗弁財天宇賀福神社。

山を下って佐助稲荷神社へ。伝説によると、伊豆に配流中の頼朝に「隠れ里の稲荷」と名乗る神霊が夢に現れ拳兵を勧めた。頼朝は託宣に従い旗揚げした。鎌倉に隠れ里と呼ばれるこの地で祠を見つけ社を建立。佐殿(スケドノ)と呼ばれていた頼朝を助けたことから「佐助」の名がついた。

鎌倉歴史文化交流館に行く。平成29年5月15日に開館した鎌倉市の博物館。原始から現代に至る鎌倉の歴史を紹介する「通史展示」と近くから発掘され

た出土品を紹介する「考古展示」を主なコンセプトとしている。

特別展として「北条氏展」を開催しており、北条氏のゆかりの品々の展示がされている。私は「御成敗式目」(室町時代の写し)が興味深かった。



(鎌倉文化交流館内)

最後は鎌倉駅西口に集合して解散した。

今回は急な山道もあったが、全員無事に、そして皆さん元気に探訪を終了することができ、良かった。また、「カエデ」「モミジ」「イチヨウ」「クスノキ」等の話題も、秋の散策にふさわしかった。次回「新春の鎌倉」も楽しみだ。

(松崎 寛 記)

# 古文書を読む会 学習記録

第一学習 更級日記		
開催日時 会場 テーマ	学 習 内 容	参加者
2022年 10月13日 (木)  金沢公会堂 リハーサル 室  更級日記②	十七日はくろとの浜に泊まる。片方は砂浜が白く広がり松原が茂る。 月がたいそう明るく、風の音もひどく心細い。人々が風情を感じて歌を詠んだりしている。早朝そこを出発して、下総の国と武蔵の境にある川の上流の松里の渡りの船着き場に泊まって、一晩中、船にてなんとか荷物を渡す。 乳母は夫も亡くしてこの国境で子を生んでいたため、出産の穢れを避けるということで私たちとは別に上京する。 今は武蔵の国となった。紫草の産地として歌にも詠まれた武蔵野も、蘆や荻ばかりが高く生えていて中を分けてゆくと竹芝寺というのがあった。	12名
2022年 11月9日 (水)  金沢公会堂 第二会議室  更級日記③	竹芝寺の伝承 宮中で夜の護衛をする東国出身の火たき屋の衛士が独り言をつぶやいていたら、帝の皇女がこれを見て東国に興味を持ち連れて行け、というので衛士が皇女を背負って武蔵まで駆けた。 朝廷よりの使いに対し、皇女が前世からの因縁からか、住み心地がよいここに住みたいと言い張るので、帝はこれを認め武蔵の国を預けとらせた。 姫宮たちが亡くなって後、その住居跡を竹芝寺とした。 すみだ川を舟で渡れば相模の国になった。「もろこし(唐)が原」というところを通ったが、もろこしが原でやまと撫子が咲いているのも面白いものですな、と人々は面白がる。 ようやく国境の足柄峠に向かうと、入り立つ麓のあたりさえ言いようもなく鬱蒼と木々が生い茂っていて、たいへん恐ろしげだ。	9名
2022年 12月8日 (木)  金沢公会堂 第2会議室  更級日記④	まだ暗いうちに足柄山にかかると鬱蒼として恐ろしげだ。夕方麓で宿をとると、庵の前に遊女が3人現れて上手に歌ったのには皆が感心し懐かしがったが、やがて山中に消えていった。 登っていくにつれて雲を足の下に踏むような心地だ。かろうじて足柄山を越えれば駿河の国、関所・横走の関のある山に至る。 富士の山はこの国にある。その山は並々ならぬ様子で、山の頂が少し平になっている所から煙が立ち上がり、夕暮になると火が燃え立つのも見える。 田子の浦は波が高いので舟で漕ぎ渡る。 富士川(大井川か)に来ると土地の人が言うには“1年位前に川上より黄色い紙が流れてきて、見ると国司任官の人事が赤色で書かれていて、翌年の人事と同じ内容であった。珍しいこともあるものだ” (以下省略。「更級日記」学習は今回で終了。)	11名

第二学習 吉宗と尾張藩主宗春の角逐		
開催日時 会場 テーマ	学習内容	参加者
2022年 10月27日(木)  金沢公会堂 リハーサル室  吉宗と尾張藩主宗春の角逐⑦	いよいよ宗春公公認の歓楽街の中心に至り、賑やかな何でもありの繁華街の描写が続く。“極楽寺門前に色紙焼、笹藤といへる八野良の宿。菓子屋いくよ餅有。芝居の弁当なと渡世にする者有り。此辺の両側、野良の宿、貸し屋敷の茶やかぞふるに隙なし。清壽院内に狂言芝居の姥か餅、餅だんご春田や料理茶屋、此辺こまかなる腰かけ茶屋数多あり。 大須寺内は漫才、軽業、軽口噺、手まりなどの見世物、利生尊き不動明王。 七つ寺院境内も芝居ありて大須に劣らぬ群衆、大日如来のたたら数夥しき騒ぎなり “ここを過ぎれば「本町通り」の両側に遊郭が見えて来る。 東に富士見原遊郭、西に西小路遊郭。 武士も編み笠を借りて遊んだようである。	12名
2022年 11月24日(木)  金沢公会堂 第2会議室  吉宗と尾張藩主宗春の角逐⑧	名古屋の賑わい 続き 稲荷神社境内で蔦屋源兵衛が浄るり芝居、金天井の太鼓櫓で鬮眞は多き芝居也。大泉寺に初めて大角力来たり、それより賑わい出して誠に利生あらたなり。大丸餅を大将として姫まんじゅうを御台所にかたどり、あこや菓子を御局になぞらへ、銭の勢揃おびたしい。中居女が格子先に出張り蚊にせかまれ、又寒気にこごえ、さりととはつらき世渡り。遠近の国々の人、当所の分限者(金持ち)も多く此里に遊ぶ、小四郎が芝居過よりことに賑わう。堀川の船に乘し、天王崎の神楽見に行んと納屋より仕出し、大神楽の漕行船の踊、うたに備ふ。廓中には茶屋、風呂屋、両替、自由をつくし家居の沢山なる中に夥敷は山形、結構なるは宇佐九に とどめぬ。	12名
2022年 12月22日(木)  金沢公会堂リハーサル室  吉宗と尾張藩主宗春の角逐⑨	(引き続き賑やかな人の往来を描く) “不二見のうたもここのうたも躍りはいづれまさりやせんか” 答曰く“おほかた五かくに参るべし哉” “角伊の色香と一文字の如月と酒のつよきはいかむ” 答曰く“それは分て申かたし” ・・・かくして踊りそめきに賑わいしも、月落鳥鳴くきて明れは朝風に夢は破れてうせにけり。 跋(あとがき) 夢は四夢五夢のわかつて表裏を論じ置たり。是は其数の外にして邯鄲遊山の二枕にも喩へつべし。人に花咲く歓楽、全篇して後生虚仮、目を覚さむといふ。 第7代尾張藩主徳川宗春は『温知政要』を著し、将軍徳川吉宗の緊縮、尚武、法治の享保の改革を批判して対立したため、隠居謹慎を命じられ名古屋城で幽閉生活に入る。死後も墓石に金網がかぶせられるという処分を受けたが、1839年にようやく許され従二位権大納言が追贈された。 (今回をもって「吉宗と尾張藩主宗春の角逐」は終了)	12名

# 「ふれあいの道歩こう会」実施概要 No.39

代表 柴崎 幸治

## 通算 第 179 回 御岳山(929m)～ロックガーデン

10月の例会は、9月の例会『関東ふれあいの道 神奈川県コース「15番 弘法大師と丹沢へのみち」』をもって神奈川県コース全 17 コースを踏破したことにより、久しぶりの「ふれあいの道」以外のコースであり、県外のコースである「御岳山～ロックガーデン」という東京都のコースを歩いた。例会当日はまれにみる絶好の天候に恵まれ、ちょっと早かったが秋の景色と楽しく、清々しいハイキングを堪能した。

朝の 8 時 45 分に青梅駅の奥多摩行ホームに集合し、8:58 発奥多摩行に乗り、御嶽で降車、急ぎ足でバス停へ、相当の人数である。バスは満員で、10 人ほどを乗り残し、ケーブルカー駅へと発車、バスを降りるとケーブルカー駅までの急坂を上る。ケーブルカーの出札でも長い列、わがグループでも予定のケーブルカーに乗れない人が発生、上部駅の御岳山駅の 20 分遅れで無事合流。待っていた人は駅横の展望台から日光連山、筑波山、江ノ島、新宿のビル群等の遠望を楽しみながら待つ。準備体操後、スタート。まずは武蔵御嶽神社を目指し、宿等の並ぶなだらかな坂道を進み、やがて階段になり、上りきると御嶽神社の本殿である。ここでしばし休息、写真を撮ったり、景色を楽しむ。本殿を後に階段を下り、来た道と反対側に方向を切り、長尾平分岐を長尾平展望台方面に、この長尾平で展望を楽しみながら、長閑に昼食とする。昼食後は、分岐まで来た道を引き返し、分岐へ、そこから歩きづらい急こう配の道を下ると、やがて七代の滝に着く。適度な水量の滝である。滝の横の人工の階段を上ると天狗岩である。天狗岩に上る者、休息する者、しばし休憩。そこからはロックガーデンへの道となり、左側は崖であるが、幅のある道で、アクシデントが起きてしまうが、なんとか無事に切り抜け、ロックガーデンへ。清流と岩、岩の中の道を歩く。途中、休憩所で休み、綾広の滝へと向かう。そして綾広の滝である。入口に鳥居が設けられている綾広の滝はちょっとスケールが大きい。滝の横の道を上りながらの綾広の滝の眺めも良い。その上り道を上りきり、大きな谷の道を対岸の斜面の樹林を眺めながら歩くとやがて清流に架かる橋を渡ると大岳山への登山道に出る。ほぼ、平坦な道を、長尾平分岐を目指す。分岐のベンチで休憩。そこからは朝来た道をケーブルカーの御岳山駅へひたすら歩く、道からの眺めは日の出山の方に御師の集落がみることができる。そんなこんなの中に御岳山駅に到着、計画の 15:00 発のケーブルカーにぎりぎり全員が間に合い。以降の交通事情が万端に進むことになり、当番が胸を下ろす。帰りのバスも結構な混み具合で、JR 御嶽駅に到着、そこからはほぼ計画通りの電車で帰途につく。

実施日：2022 年 10 月 20 日(木) 天候：晴れ 歩行時間：約 5 時間 歩行距離：約 5.75km

参加者：18 名(男性 14 名 女性 4 名) コース所在地：東京都 青梅市

交通：往路：京急 金沢文庫 6:22 発 ⇒ 6:49 着 京急川崎 (徒歩) [JR 南武線] 川崎 7:01 発 ⇒ 8:02 着 立川(乗換) [JR 青梅線] 8:11 発 ⇒ 8:43 着(乗換) 青梅 8:58 発 ⇒ 9:15 着 御嶽

復路：JR 青梅線 御嶽 15:39 発 ⇒ 15:56 着 青梅 (解散)

コースと時間：御嶽駅 9:20 発(西東京バス) ⇒ 9:30 着 ケーブル下バス停 (乗換) 瀧本駅 9:40 発(御岳山ケーブルカー) ⇒ 9:46 着 御岳山駅 [準備体操・挨拶] 10:00 ⇒ 10:25 御嶽神社 10:45 ⇒ 11:10 長尾平[昼食] 11:50 ⇒ 12:20 七代の滝 12:30 ⇒ 12:40 天狗岩 12:55 ⇒ 13:20 (ロックガーデン) 休息所 13:35 ⇒ 13:45 綾広の滝 13:55 ⇒ 14:00 大岳道分岐 ⇒ 14:56 御岳山駅 15:00 発(御岳山ケーブルカー) 15:06 着 ケーブル下バス停 15:22 発(西東京バス) ⇒ 15:32 着 御嶽駅(JR)

秋気澄むロックガーデンひと行き来 一杓



武蔵御嶽神社本殿にて



綾広の滝にて

前回で。関東ふれあいの道神奈川コースをすべて終了し独自コースに戻りました。11月、昨年コロナ感染対応にて中止した、「竹寺から子の権現」に東郷公園の秩父御嶽神社を追加したコースです。

本コースは小殿バス停から西武秩父線の吾野駅までで、関東ふれあいの道 埼玉県 2 番「奥武蔵の古里をたずねるみち」でもある。

西武池袋線飯能駅から国際興業バスさわらびの里行きで小殿バス停で降りる。

小殿バス停脇で準備体操・挨拶を済ませ、道路の向かい側の数十メートル先の登山口入り口からいきなり樹木林の急登を登り、25分ほど歩くと鉄塔の下の開けた所に出る、見晴らしが良く水分休憩を取る。そこから又樹林帯をさらに登り八幡坂の頭、そしてすぐ鐘撞堂に到着。ここからは見晴らしが都心のビル等が見られた。何人かの方が鐘を突き鐘の音を響かせた。竹寺に向かって下っていく、すると色づいた紅葉と小屋が見えてきた、子の権現との分岐を右に行くと竹寺の午頭天王本殿に到着。石段を下り茅の輪をくぐり紅葉の脇を下り竹寺本坊前で昼食。竹林等の境内を散策し先程の子の権現への分岐に戻り子の権現方面に向かう。登りが続き豆口山の脇を通り少し下ると豆口峠につく、この峠には神送り場(峠は隣村との境で、連絡路でありました。昔、峠の近くには『神送り場』があり、悪い流行病が流行った時には、村人は夜中に鐘や太鼓をたたいてこの場に集まり、頂上で厄病神を追い払う習わしがありました)の跡がありました。根っこの多い急登を登り愛宕山に到着そこには鳥居がある小高いところがありその右下を道なりに歩く。さらに行くと開けた峠にでて水分休憩と見晴らしを楽しんだ。そこからさらに急登を登り竹寺から約85分で子の権現に到着した。子ノ権現縁起には、「魔火のため腰と足を傷め悩めることあり。故に腰より下を病める者、一心に祈らば、その験を得せしめん。」とあるように、当山は古より足腰守護の神仏として広く信仰を集めています。鉄のワラジを始め、夫婦下駄・庫裡廊下梁に掲げた額等信仰の証となるものが多く残されています。子の権現の本堂前とわらし前前で集合写真を撮り、奥の院を通り東郷公園を目指し下りだしました。途中滝不動そして浅見茶屋を通り、15時30分に東郷公園の秩父御嶽神社に到着。メンバーのT氏の計らいで秩父御嶽神社の宮司による秩父御嶽神社の由来及び東郷平八郎の銅像を建立した秩父御嶽神社の創建者 鴨下清八氏の東郷元帥の銅像建立の熱意等をお話し頂きお土産まで頂いた。この神社は多くのモミジが植わっており今年は思ったより早い色付きでライトアップの準備が間に合っていないとのことでしたが素晴らしい紅葉が見られた。また、東郷平八郎の銅像も紅葉に覆われていた。T氏によると秩父御嶽神社は奥深く今日は行かなかった本殿を含めた所を、半日位かけて参拝するところなので、機会みて案内したいとの事でした。東郷公園を出て約25分で吾野駅にゴール。

(本ページ 江口副代表 記)

実施日：2022年11月17日(木) 天候：晴後曇り 歩行時間：約4時間30分 歩行距離 約10.4km

参加者：16名(男性12名 女性4名) コース所在地：埼玉県 飯能市

交通：往路：京急 金沢文庫 6:11 発 ⇒ 6:28 着 横浜 (乗換)[東横線] 6:43 発(清瀬行) ⇒ 7:50 着 石神井公園(乗換)[西武池袋線] 7:57 発 ⇒ 8:40 着 飯能

復路：西武秩父線 吾野 17:04 発 ⇒ 17:26 着 飯能(乗換) 17:28 発 ⇒ 18:11 着 石神井公園(乗換) 18:11 発 ⇒ 19:15 着 横浜([東横線])

コースと時間：飯能駅 9:25 発(国際興業バス さわらびの里行) ⇒ 10:09 着 小殿バス停 バス停 10:25 ⇒ 10:50 鉄塔下 10:55 ⇒ 11:30 鐘撞堂 11:40 ⇒ 11:56 竹寺(昼食) 12:35 ⇒ 13:10 豆口峠 ⇒ 13:50 子の権現手前 14:00 ⇒ 14:05 子の権現 14:15 ⇒ 15:30 東郷公園 16:13 ⇒ 16:35 吾野駅

竹寺や良き佇まい冬の空 一祝



竹寺茅の輪石段にて



子の権現本殿にて

## 第 181 回 自然豊かな観音崎ハイク

12月例会は、例年11月の末から12月初めにかけて実施されている。そして、この近年は近場で比較的楽なコースを設定している。今回は「自然豊かな観音崎ハイク」というコースである。

京急本線 馬堀海岸駅の駅前に朝9時に集合し、ちょっと歩いてスーパーの店頭広場をちょっと借り、当番挨拶、準備体操を行った後、スタートである。駅前に戻り、あまり車の通らない道を進む、最初の案内看板が「高尾」である。江戸吉原三浦屋の花魁8代目高尾太夫は、この地の馬堀3丁目の前町名の高尾、馬堀高尾の出身であると記されている。高尾の諸説に議論が沸く。少し歩くと車通りの多い道と合流、少し歩き、交差点を右に折れ、坂道をすこし歩く「馬頭観音」である。縁起に書かれていることは、千葉の田畑を荒らすような荒れ馬が海に飛び込み、小原台に流れ着き、馬が喉を癒すために掘った穴から清水が湧き出て、その水を飲んだ馬が駿馬になり、頼朝公に献上され、宇治川の戦いで活躍した。地名の馬堀はそれによるものである。「馬頭観音」後にして交差点まで戻り、隧道をくぐり抜けると「走水水源地」である。海に面し、細長く続く水源地をお花見の頃は最高だろうなと思いながら歩き、最後は「ヴェルニーの水」の水飲み場で水をコップで汲みいただく。再び車道に出て、緩やかな坂を上り「東京湾眺望 夕陽の富士」なる看板、さんねんながら富士山は見え、しかし眺望は良い。走水小学校の前の細い歩道をくぐると「走水番所・旗山崎台跡」、「走水低砲台跡」、「御所ヶ崎」と続き、少し歩いて路を渡ると「走水神社」である。手入れの整った神社である。参拝、記念撮影。神社を出て、再び横須賀海岸通りに出ると防衛大学校、その前を通り、京急ホテル(2022年9月30日営業終了)を見えたら左に折れ、海側に出てウッドデッキを歩くと、観音崎の電波塔が見え、すぐに観音崎公園である。そのまま観音崎園地へ、海が見え、波が岩に押し寄せる海岸のベンチで休息。このベンチで英気を養い、いよいよ観音崎灯台への道を上る。かなり厳しい。上り切ったところが「観音崎灯台」である。灯台に上る人、休む人、それぞれ、記念撮影。灯台より下り、上りを繰り返す、山の中のような道を出ると「東京湾海上交通センター」、「砲台跡」と進み、大きなモニュメント、船員と人魚の群像がある「戦没船員の碑」である。ほとんどの人が初めて?、記念撮影。「戦没船員の碑」を出て、急峻な谷間をくぐると「たたら浜」である。ここからはまた一般道を海を見ながら歩き、やがて大きな「かもめ団地」が海側に位置し、そこを抜けると「東叶神社」、この神社は勝海舟が咸臨丸で太平洋横断前に井戸水で水垢離をし、明神山で断食をしたと云われている。参拝、記念撮影。神社を出て「浦賀の渡し」の東渡船場に、2班に分かれ乗船、渡し賃は400円。この渡しは海の上の道、浦賀海道と呼ばれ、全国でも珍しい横須賀市の市道となっているらしい。西渡船場に全員集合で、そこから「舟番所跡」、「為朝神社」、「浦賀奉行所跡」、そして「西叶神社」、この神社は社殿を取り巻く彫刻が素晴らしく、社殿も金色に輝く、とても美しい神社である。参拝、記念撮影。ここを出て、浦賀駅に向かう途中の浦賀コミュニティセンター分館に寄り、浦賀駅で解散。

実施日：2022年11月30日(水) 天候：曇り時々晴れ コース所要時間：約6時間30分 距離：約14km

参加者：19名(男性14名 女性5名) コース所在地：神奈川県 横須賀市

交通：往路：京急 金沢文庫 8:36 発 ⇒ 8:54 着 馬堀海岸

復路：京急 浦賀 15:55 発 ⇒ 16:24 着 金沢文庫

コースと時間：馬堀海岸駅[挨拶・準備体操] 9:10 ⇒ 9:25 馬頭観音 9:30 ⇒ 9:40 走水水源地 9:55 ⇒ 10:15 御所ヶ崎 10:20 ⇒ 10:25 走水神社 10:40 ⇒ 11:25 観音崎灯台 11:45 ⇒ 11:55 海の見晴台(昼食) 12:30 ⇒ 12:35 戦没船員の碑 12:45 ⇒ 12:55 たたら浜 ⇒ 13:00 八幡神社 13:10 ⇒ 13:35 東叶神社 13:50 ⇒ 13:55 浦賀の渡し(乗船) 14:10 ⇒ 14:15 舟番所跡 14:20 ⇒ 14:25 為朝神社 ⇒ 14:30 浦賀奉行所跡 14:35 ⇒ 14:45 西叶神社 15:00 ⇒ 15:10 浦賀コミュニティセンター分館 15:20 ⇒ 15:35 浦賀駅

灯台や湾を守りて冬最中 一祝



観音崎灯台にて



西叶神社にて

## 俺たちに明日はない (Bonnie and Clyde)

観賞日 2022年10月10日 上映時間 112分

【参加者：39名】

## 【概要】

制作 1967年 アメリカ  
 監督 アーサー・ペン  
 脚本 デヴィッド・ニューマン、ロバート・ベントン  
 音楽 チャールズ・ストラウス  
 撮影 バーネット・ガフィ  
 出演 ウォーレン・ベイティ (クライド・バロウ)、フェイ・ダナウェイ (ボニー・パーカー)  
 マイケル・J・ポラード (C. W. モス)、ジーン・ハックマン (バック・バロウ)  
 エステル・パーソンズ (ブランチ・バロウ)



## 【あらすじ】

アメリカ・テキサス、1931年。ボニー・パーカーは刑務所帰りの男クライド・バロウと出会う。ここから、仕事は銀行強盗というクライドと金髪のボニーの物語が始まる。その後、自動車に詳しいC. W. モスとクライドの兄であるバック夫妻を仲間に加えた5人はいつしか南部では有名な銀行強盗になっていた。警察の盲点を突いた州境で起こす犯行。気の休まらない逃亡生活。仲間同士の反目。後戻りできない明日なき日々。ついにバックが射殺され、負傷した二人はモスの実家に逃げ込む。

1960年代の「病めるアメリカ社会」を背景に、実在したアンチヒーローを主役に据えたアメリカン・ニューシネマの先駆けとなった作品。映画史に残る壮絶なラストシーン。

## 【解説】

## ■ポイント

## ●ボニーとクライド

1930年代に実在した若い男女二人組の銀行強盗。当時のアメリカは未曾有の不況と悪名高き禁酒法で荒廃していた時代。国民の不満は充満しており、警察を欺き犯行を繰り返す二人に拍手を送る者もいた。

## ●アメリカン・ニューシネマの代表作

- ・1960年代後半から1970年代の前半にかけてアメリカ映画を席卷した作品群  
特徴は「アンチヒーロー」「アンチハッピー」
- ・代表作は本作以外に「卒業」(1967年)、「イージー・ライダー」(1969年)  
「真夜中のカウボーイ」(1969年)、「マッシュ」(1970年)他

## ●絶妙な邦題

「ボニーとクライド」→「俺たちに明日はない」

「ブッチ・キャシディとザ・サンダース・キッド」→「明日に向かって撃て」

## ●授賞・評価

1968年第40回アカデミー賞：10部門にノミネートされ2部門(助演女優賞・撮影賞)受賞  
 AFI「アメリカ映画ベスト100」(2007年)：27位にランクイン

## ■見どころ

## ●ラストシーン

87発の銃弾を浴びる壮絶な死(「死のバレエ」と呼ばれた)

## ●ボニーが語る「ボニーとクライドの詩」

## ●音楽

「フォギー・マウンテン・ブレイクダウン」：警官に追われて逃げ回るシーンにかかる

# 波止場 (On the Waterfront)

観賞日 2022年10月24日 上映時間 108分

【参加者：40名】

## 【概要】

制作 1954年 アメリカ  
監督 エリア・カザン  
脚本 バッド・シュールバーグ  
音楽 レナード・バーンスタイン  
撮影 ボリス・カウフマン  
出演 マーロン・ブランド (テリー)、エヴァ・マリー・セイント (イディ)  
カール・マルデン (バリー神父)、ロッド・スタイガー (チャーリー)  
リー・J・コップ (ジョニー)



## 【あらすじ】

世界一の貿易港ニューヨーク。ジョニーは港で働く労働者を支配するマフィアのボス。港湾労働者ジョーイがアパートの屋上から墜落死する。ジョーイは明日の公聴会でジョニーの悪業を暴露するはずであったが、それを恐れたジョニーに殺されたのだ。ジョーイの友人テリーはジョーイの妹で大学生のイディに好意を抱く。テリーはかつて有望なボクサーであったがジョニーが仕組んだ八百長試合でボクサー人生を棒に振り転落した過去があった。さらに、テリーの兄チャーリーはインテリでジョニーの知恵袋的存在であった。イディはテリーにバリー神父と協力してジョニーの不正を暴くように頼む。そんな時、またしても犠牲者が出る。公聴会でジョニーの不正を語ろうとしたデューガンだ。バリー神父は労働者に対し決起を呼びかける。揺れ動くテリーの気持ち。ジョニーの命令を受けたチャーリーがテリーを説得しにやってくる。説得に失敗したチャーリーの死。遂にテリーの腹が決まる。公聴会でジョニーの悪事を断罪するテリー。テリーとジョニー一味との格闘。一度は叩きのめされたテリーが立ち上がって・・・。

港を牛耳る悪に敢然と戦いを挑むテリー。アメリカ映画史に燦然と輝く傑作。

## 【解説】

### ■ポイント

#### ●エリア・カザンとテリー

- エリア・カザンは本作以外にも「紳士協定」「エデンの東」などの作品を残したハリウッドでも屈指の名監督。
- カザンは1950年代の赤狩りの時代、元共産党員の嫌疑をかけられ、それを否定するため司法取引に応じ11名の仲間の名前を公表、それにより仲間は失職したという過去がある。
- 本作でテリーは最初ボスの指示に従っていたが最後には考え直してボスを追放している。カザンは自身の信念を貫徹できなかった悔恨を本作でテリーに託したという見方ができないであろうか？



#### ●評価

1954年第27回アカデミー賞：10部門にノミネートされ8部門受賞  
作品賞、監督賞、主演男優賞、助演女優賞、脚本賞、撮影賞、美術監督賞、編集賞  
AFI (アメリカ映画協会) アメリカ映画ベスト100 (2007年)：19位

### ■見どころ

- 画面にピタリと寄り添うバーンスタインの音楽と効果音 (テリーがイディにジョーイ事件の真相を語る時に鳴り響く汽笛)
- キーワード：「鷹におびえる鳩」「黄金戦士のリーダー」

# 三人の妻への手紙 (A Letter to Three Wives)

観賞日 2022年11月14日 上映時間 103分

【参加者：36名】

## 【概要】

制作 1949年 アメリカ

監督 ジョセフ・L・マンキウィッツ

脚本 ジョセフ・L・マンキウィッツ、ヴェラ・キャスパリー

音楽 アルフレッド・ニューマン

撮影 アーサー・C・ミラー

出演 シーン・クレイン (デボラ・ビショップ)、アン・サザーン (リタ・フィップス)

リンダ・ダーネル (ローラ・メイ)、カーク・ダグラス (ジョージ・フィップス)

セルマ・リッター (サディ・デュガン)



## 【あらすじ】

戦後間もないころのアメリカ。デボラ、リタ、ローラの三人は近所に住む仲良し三人組。三人は夫婦で家族ぐるみの付き合いをしている。デボラは農家の娘で三人の中で唯一田舎育ち。海軍時代に当地の名家のブラッドと知り合い結婚した。ラジオ作家のリタは幼馴染で薄給の高校教師、ジョージと結婚。ローラはデパート経営者で金持ちのポーターと結婚していた。土曜日、三人は婦人クラブの行事で近くの湖にピクニックに出かける。遊覧船に乗る間際、「三人のうちの誰かのご主人と駆け落ちします」というアディ・ロスからの手紙を受け取る。アディは三人の夫がかつて憧れていた町一番の美人でマドンナ的存在。三人は表面的には平静を装うが内心大きく動揺する。それというのも三人にはそれぞれ手紙の内容に思い当たる節があったからだ。都会育ちと田舎育ちの夫婦。収入逆転の夫婦。貧富の差がある夫婦。現に、いつも行くゴルフに行かなかったデボラの夫ブラッド、釣りを急に取り止め背広に着がえたりタの夫ジョージ、駅で見かけたローラ・メイの夫ポーター、怪しい夫たちの行動。果たして、アディと駆け落ちするのは誰の夫なのか？

脚本家出身の映画監督マンキウィッツがその才能をいかに発揮したサスペンス・ラブコメディ。

## 【解説】

### ■ポイント

#### ●見事なシナリオ

観客を惹きつけるスリリングな導入部。三組の夫婦の馴れ初めから現在に至るまでに起きた象徴的なエピソードを巧みに取り入れた展開部。洒落たエンディング。

名匠、ビリー・ワイルダーは「映画の8割はシナリオで決まる」と語り、アルフレッド・ヒッチコックは良い作品を作るためには「一にシナリオ、二にシナリオ、三にシナリオ」とシナリオの重要性を強調している。

#### ●受賞：1949年第22回アカデミー賞

3部門にノミネートされ2部門で受賞 監督賞・脚本賞：ジョセフ・L・マンキウィッツ  
マンキウィッツは翌年の「イヴの総て」でも2年連続監督賞と脚本賞をダブル受賞

### ■見どころ

●手紙を見た三人の妻の平静を装いながらの動揺ぶり

●電車が通るたびに揺れるローラ・メイの実家

●アディ・ロスは夫婦を引き裂く破壊者だったのか？

話題の中心で、夫たちの憧れの的。画面に登場しないアディ・ロスの存在感

●三組の夫婦のなかであなたが選ぶベスト・カップルは？

# 切腹 (Harakiri)

観賞日 2022年11月28日 上映時間 133分

【参加者：37名】

## 【概要】

制作 1962年  
監督 小林正樹  
脚本 橋本忍  
音楽 武満徹  
撮影 宮島義勇  
出演 仲代達矢 (津雲半四郎)、三國連太郎 (齊藤勘解由)  
石濱朗 (千々岩求女)、岩下志麻 (美保)  
丹波哲郎 (沢瀉彦九郎)



## 【あらすじ】

寛永7年(1630年)5月13日、井伊家上屋敷。大藩であった芸州福島家の浪人津雲半四郎と名乗る者が現われる。津雲は仕官の道もなくこのまま浪人生活に甘んじるのは忍びなく切腹する場所を探していると語る。井伊家は赤備えの勇武の家風で武士の晴の死に場としてはふさわしいと考えたという。対応した家老の齊藤勘解由はその年の1月にも福島家中の千々岩求女と名乗る若者が同様の主旨で現れたと話す。そしてその時井伊家で起きた詳細を語る。

当時江戸市中には浪人があふれ、大名屋敷で切腹するといいいながら金品をせしめて帰るとい輩が横行していた。千々岩も他の輩と同様の理由で当家を訪れたが武勇を重んじる井伊家では切腹は武士の鑑で感服したとして切腹を認めると言い出した。驚いた千々岩は一時帰宅を懇願するが認められず、衆人環視のもと竹光で切腹するという塗炭の苦しみを味わいながら絶命する。

家老は千々岩の話をして翻意を促すが津雲の決意は変わらない。津雲は死を前にして千々岩との関係を静かに話し始める。理不尽なお家取潰しに端を発する親友の千々岩陣内の切腹、陣内の息子求女と自分の娘美保との結婚、初孫金吾と美保の病気とその後の死亡、求女が井伊家を訪れた経緯、井伊家から死体で帰ってきたこと。ようやく、津雲の魂胆に気付く井伊家の重臣たち。津雲は井伊家の強者三名との決闘を話し井伊家を嘲笑する。面目をつぶされた家老は井伊家の威信をかけて津雲に襲いかかる。

面目にこだわる非人間的な武士道を痛烈に批判した問題作。格調高い凛とした作品。

## 【解説】

### ■ポイント

#### ●江戸初期の浪人事情

当時は徳川幕府により取潰し、国替えされた大名が多発し、それに伴って大量の浪人が発生した。浪人は新しい仕官先を求めたが天下泰平の世では仕官は難しいものであった。

#### ●橋本忍(1918年~2018年)

- ・兵庫県生まれの脚本家。生涯に90本ほどの作品を執筆。
- ・伊丹万作に師事。伊丹の死後黒澤明と知り合い「羅生門」を共同執筆。以後「生きる」「七人の侍」等黒澤の代表作を共同執筆。
- ・TVドラマ「私は貝になりたい」を執筆、その後映画化され監督を務める。
- ・代表作：「白い巨塔」(1966年)、「砂の器」(1974年)、八甲田山(1977年)
- ・映画界最強の脚本家と呼ばれ脚本の世界では神様の存在  
2000年に故郷に「橋本忍記念館」が設立された。



### ■見どころ

#### ●当時29歳の仲代達矢入魂の名演技

- ・名優三國連太郎との演技合戦
- ・井伊家随一の剣の使い手、澤瀉(=丹波哲郎)との決闘シーンは迫力満点

#### ●赤備えの鎧

武勇の井伊家の象徴。ひいては武士、武士道の象徴。

# ライフ・イズ・ビューティフル

観賞日 2022年12月12日 上映時間 117分

【参加者：40名】

## 【概要】

制作 1997年 イタリア

監督・脚本 ロベルト・ベニーニ

音楽 ニコラ・ピオヴァーニ

撮影 トニーノ・デリ・コリ

出演 ロベルト・ベニーニ（ガイド・オレフィチェ）

ニコレッタ・ブラスキ（ドーラ）、ジョルジュ・カンタリーニ（ジョズエ・オレフィチェ）

ホルスト・ブッフホルツ（レッシング医師）



## 【あらすじ】

1939年、イタリア北部トスカーナ州アレッツォ。ガイドは叔父を訪ねてやって来る。道すがら小学校の教員、ドーラに会い恋に落ちる。ドーラには気に入らないフィアンセがいたがガイドはドーラを略奪する。時は経過し、ガイドとドーラとの間に長男ジョズエが誕生、二人は幸せな生活を送る。大戦も末期のある日、ガイドとジョズエは突然ドイツ軍に連行され強制収容所に送り込まれる。ユダヤ人でないドーラも二人を心配して後を追う。事態がわからず不安なジョズエにガイドは「これはゲームであり、1000点を取ってゲームに勝てば、終了後に戦車に乗って家に帰れる」という嘘をつく。息子の身を護ろうと懸命に嘘をつきとおす父親ガイドと父親の言いつけを守ろうとする息子ジョズエ。やがて、戦争が終わりドイツ軍は収容所から夜の闇に紛れて撤退する。ドーラの身を案じ探し求めるガイドは運悪くドイツ兵に捕まり……。朝になりドイツ軍が去った収容所。父親の言いつけを守りゲームに勝ったジョズエはガイドが話したとおり、進駐してきた連合軍の戦車に乗り故郷に帰った。

命を懸けて愛する妻と息子を護った男の感動のラブストーリー。ホロコーストさえコメディにしてしまうイタリア映画の底力。

## 【解説】

### ■ポイント

#### ●ロベルト・ベニーニ

- ・1952年イタリア北部、トスカーナ出身
- ・1997年：本作で監督、脚本、主演を務める

なお、本作でドーラ役のニコレッタ・ブラスキは実生活でも夫人（1991年～）

#### ●受賞（1999年第71回アカデミー賞受賞）

主演男優賞、外国語映画賞

### ■見どころ

#### ●家族愛

- ・ガイドとジョズエの親子愛と信頼感

この話自体は助かったジョズエが過去を回想するという形式をとっている。

- ・ガイドとドーラの夫婦愛

純粹イタリア人であるドーラがガイドとジョズエの身を案じて収容所に同行

# クライマーズ・ハイ (The Climber's High)

観賞日 2022年12月26日 上映時間 145分

【参加者：34名】

## 【概要】

制作 2008年

監督 原田真人

原作 横山秀夫

脚本 加藤正人、成島出、原田真人

音楽 村松崇継

撮影 小林元

出演 堤真一（悠木デスク）、堺雅人（佐山キャップ）、尾野真千子（玉置千鶴子）

山崎努（白河社長）、遠藤憲一（等々力社会部長）、皆川猿時（伊東販売部長）

でんでん（亀嶋整理部長）、蛭雪次朗（迫村編集局次長）、滝藤賢一（神沢周作）



## 【あらすじ】

1985年8月。群馬県の地方新聞社、北関東新聞社（北関）は県内で起きた日航機墜落事故でてんやわんやの大騒ぎになっていた。「日航全権」デスクに任命された悠木は谷川岳登攀を急遽取りやめて任務に就く。社内には10数年前に県内で起きた大事件（連合赤軍事件、大久保清事件）で活躍した上司世代との争い、締め切り時間を巡る販売部との争い、長期政権で社内に君臨する白河天皇の存在がある。

また社外では、全国紙各社とのスクープ合戦に苦闘する。事件の起きた現地の地元紙として、意地でも負けるわけにはいかない北関。どなり合いつかみ合いを続けながらクライマーズ・ハイ状態で紙面づくりに邁進する記者たち。漸く、事故の原因が圧力隔壁の破壊にあるとつかんだ悠木だが。チェック、ダブルチェックを信条とする悠木がとった行動は・・・。

家庭をも顧みず仕事に全精力を傾けた男が、22年前に果たせなかった谷川岳の登攀を、亡くなった同僚の息子と行いながら回想する若かりし頃の熱き思い出、苦い悔恨。

## 【解説】

### ■ポイント

#### ●原作はベストセラー作家、横山秀夫の長編小説

原作は群馬県の地方紙の記者であった作者が記者時代に実際に経験した日航機墜落事故をモチーフにした長編小説。作者が得意とする組織の中で理想と現実のはざまに苦闘する人間模様を渾身の筆で描く。

#### ●クライマーズ・ハイとは

登山時の興奮状態が極限にまで達し、恐怖感が麻痺してしまう状態のこと

この作品では、それを回避する概念としてチェック、ダブルチェックが使われている。

### ■見どころ

#### ●熱気あふれる社内の風景

連合赤軍事件、大久保清事件以来の重大事故に直面した記者たちの燃えたぎる熱気がいきいきと描かれ迫力ある映像となっている。

#### ●その後にブレイクした俳優が多数出演

堺雅人、遠藤憲一、尾野真千子、滝藤賢一・・・

# 「浮雲俳句会」

抄録 NO.59

代表 太田 耕蔵

10～12月はコロナ感染拡大の高止まりの中、規制緩和もあり気をつけながらでしたが、全て対面句会を実施することができました。10月には金沢自然公園(動物園)での吟行句会を実施しましたが、秋晴れに恵まれ即吟の秀句が多く生れ楽しい句会となりました。又句会後のコーヒータイムに3年ぶりに懇親会の話がまとまり、11月句会後に懇談・懇親会を行ないました。

164回句会 令和4年10月23日

## 会員選の特選句と自評

レンズから鷓迫るやみずの谷 國 眼

ののはな館から植物園エリアのなんだろ坂を経て、更に下っていくとみずの谷に。そこに7～8人の静かなる一団。大きな望遠レンズのカメラの放列。尉鷓(じょうびたき)でしょうか。最近日本に飛来の渡り鳥を見せてもらいました。レンズからの至近距離での鷓(ひたき)との幸せな出会いでした。

なんだろ坂木の実踏む癖やみつきに とも女

3年ぶりに、秋の金沢自然公園を訪れた。はじめに、動物園に入ったが、久しぶりに、動物たちと出会えて、「おお、元気にしていたか。」と声をかけたくなる気分だった。動物園を出て、なんだろ坂を下っていくと、急に人の声が遮断され、森の中へ入ったような静けさで、日差しのない道が続いた。そして、道や石段には、びっしりとどんぐりが落ちていて、踏まないと進めない。踏んだ時のパリッ、パリッと鳴る音の感触がたまらない。ストレスが解消するかのよう気持がよい。帰りも同じように楽しんだ。子供に返ったのかな。ストレスが溜まっていたのかな。

秋気澄む麒麟の首は空を分け 一 梶

10月23日の吟行会は久方ぶりのまたとない快晴でかつ日曜日でもあったことから金沢動物園は幼子連れファミリーで賑わった。特に入場口から近い麒麟に幼子は手を振ったり声掛けをしたり大はしゃぎで麒麟も長い首を蒼空へ向け精一杯に伸ばしこれに応える如くであった。

清秋の谷を貫く鳥のこゑ 和 女

秋晴れの中、吟行会が行われました。親子連れで賑わう金沢動物園を散策し、金沢自然公園の「しだの谷」にも足を運んでみました。木洩れ日とさわやかな空気が流れる谷。時折、鋭く甲高い鳥たちの声があたり一面に響き渡っていて、とても印象的でした。

赤蜻蛉しばし黙想シダの谷 あきえ

その日は天高しの言葉通りの好天に恵まれ、金沢自然公園の南面は紅葉と背高泡立草の黄色で鮮やかに彩られていました。一方シダの谷は対照的で緑深い別世界。枕木のような太い木の階段を下りて行くと、赤蜻蛉が数匹飛んでいるのが目に留まり、小さいながら緑の中の赤色が印象的でした。一匹の赤蜻蛉が階段の木に止まり、暫く動かず物思いに耽っているようでした。

## 165 回句会 令和4年11月20日

### 会員選の特選句と自評

#### 先譲る杖突く同士小春風 真 青

バスを降りる時の支払いでの高齢の男性二人のやりとりの光景がベースです。杖突く身になったけれどもお互いに相手を思いやる心に、温かさが伝わって来た。自分もさらに年齢を重ねていくが、こうありたいと思いました。

#### 丸き背に小春担ぎて歩む夫 とも女

11月は、寒暖の差が激しく、春のような暖かい日もあれば、冬の到来を思わせるような寒い日もあります。今年も、振り返るとその通りでした。寒いと、夫は外に出たがりませんが、晴れて暖かい昼間になると、庭に出て、杖を突きながらそぞろ歩きをしています。曲がった丸い背中に、暖かい日差しを載せて、気持ちよさそうです。

#### 諸磯の富嶽隠すや時雨雲 國 眼

三浦半島三崎周辺での金子先生の「植物観察会」に久しぶりに出かけました。天気予報が外れて、傘をさしてのあいにくのスタートです。午前中いっぱい雨でした。終わり頃の解散地点の近くは浜諸磯でした。いつもはここから富士山が綺麗に見えるとのことですが、残念無念でした。

#### 子ら燥ぐ落葉時雨の並木道 とも女

11月も半ば過ぎには、銀杏の葉が落ち始め、風が吹くと、地面は、黄色い絨毯となります。金沢区にも、銀杏並木が、方々に見られます。私が目にした光景は、保育園のお散歩の途中でした。園児が歩いていた歩道に、銀杏の葉が盛んに散っておりました。迷惑そうに手で払っている子もいましたが、元気そうな子たちは、上を向いて、葉をつかまえたり、地面に落ちていた葉を、両手で掬い、ばらまいたりして燥いでいました。暫くして、付き添いの保育士さんは、落ち葉を手を持った園児たちを連れて帰って行きました。

#### 夕暮れの黒き鳥影木守柿 和 女

日本では、古くから自然を慈しみ、共存する生活をしてきました。小鳥のために柿の実をひとつだけ残しておくという「木守柿」もそのひとつだと思います。ある日の夕方、大きな鳥の太い鳴き声が木のまわりで響いており、翌日すっかり裸木になっておりました。その姿を眺めながら、改めて冬の到来を実感しました。

## 166 回句会 令和4年12月25日

### 会員選の特選句と自評

## はんなりと障子明りに観世音

祥 代

十九年前に寺社巡りの会に入会し、数多の仏様を拝ませていただきました。その中で私は観世音のやさしさと包容力に最も心を惹かれました。十二月の兼題に「明り」をいただいた時に、お寺さんの障子明りを入れたいと思いました。その中で、観世音様のはんなりと上品で落ち着いた華やかさを持つさまを思い浮かべ、この句を詠みました。

## ボロ市や人待ち顔の古こけし

二 点

歳末の2日間と新年の2日間開催されている世田谷のボロ市に、開催される会場の近くに家内の実家があり、何回か訪れました。骨董品を扱うお店の一番上の段の端に古びたこけしが置いてありました。こけしは一体だけでさみしくお客さんを見つめ、連れて帰ってくれる人を待っているように感じた事を句にしました。

## 払暁の明かりほのかや霜の華

十 九

ほんのりと払暁の明かりが辺りに降りると、霜の華もほのかな明かりを一面に灯しはじめる。日昇れば消えていくその華の淡いのち。花の命は短くて、と言う。短さ故の尊さ。「ほのか」は両かかりの措辞。

## 着地してなほ音転(まろ)ぶ枯葉かな

あきえ

我が家の北側は銀杏並木の坂道、南側は市民の森で、日頃からよく落ち葉を掃きます。特に晩秋から冬に向かう時期は、落ち葉の量が多く色も形も様々で、濡れた葉乾いた葉でも質感が違います。ある日、ゆっくりと落ちた葉が突然の風を受け坂道を楽しそうに転んでいく様にしばし耳と目を奪われました。

## 大原の角なき野辺や雪明り

二 祥

ここでの「大原」は京都市北西部で四方を山に囲まれ、平安時代から親王や貴族の出家、隠棲の地と知られ、三千院、寂光院もあり雅で上品な山里のことです。又今ではデューク・エイセスのヒット曲「女ひとり」にも歌われ、観光地化しました。しかし、そんな大原を十二月中旬、初雪が降りました。辺り一面薄っすらと雪に覆われた。日が落ちると、薄明るく世間の汚れを隠し、尖りもなく出過ぎた景もない、心安まる里に戻りました。

## 機の明かり冬の星座に埋もれけり

重 九

多分成田発と思われるが、夜空を西に向かって飛んでいる飛行機を見かけた。真上の時は機の明かりも点滅しているのがはっきりと見えたが、遠ざかるにつれて機の明かりも小さくなり、やがて冬の星座群の中に埋もれて星屑の一つになってしまった。今頃は澄んだ中天にオリオンを中心に多くの動物の星座を見ることができ楽しい。

## 凍鶴の脚一本の四次元

十 九

凍鶴は動かない。浅瀬の音も聞こえない静寂の中。じっと一本脚で立ったまま時間が流れる。何も無い世界に見えて、動きのない故の時間に、却って様々な思いが広がってくる。悲喜も苦楽も超越したかのような次元の世界がある。

# パソコンを使いこなす会 実施報告【11】

2022年10月～12月

## 2022年度 第13回分科会

- 日時：10月11日（火）9：30～12：00
- 場所：八景コミュニティハウス
- 内容：パソコンノウハウ講座 -パソコンのノウハウ-
  1. Explore
  2. Edge
  3. 綺麗な文書
  4. ショートカットキー
  5. マウス操作
  6. Zoom
- 参加者：15名+Z3名
- テキスト：パソコンを使いこなす会\_2022年10月11日\_テキスト



このQRコードをスマホのアプリで読み込むと、テキストを見ることが出来ます。

## 2022年度 第14回分科会

- 日時：10月18日（火）9：30～12：00
- 場所：八景コミュニティハウス
- 内容：EXCEL 講座 - EXCEL の基礎② -
  1. オートSUM関数
  2. 四捨五入・切り捨て・切り上げ関数
  3. 平均・最大値・最小値関数
  4. 数を数える関数（COUNT）
  5. IF関数
  6. 集計関数（SUMIF）
  7. 条件付き個数関数（COUNTIF）
  8. 集計関数（RANKEQ）
  9. データの抽出関数（VLOOKUP）
  - 10.その他



このQRコードをスマホのアプリで読み込むと、テキストを見ることが出来ます。



この QR コードをスマホのアプリで読み込むと、  
材料を見ることが出来ます。

- 参加者：14名+Z3名
- テキスト：パソコンを使いこなす会\_2022年10月18日\_テキスト

---

## 2022年度 第15回分科会

- 日時：11月8日（火）9：30～12：00
- 場所：八景コミュニティハウス
- 内容：EXCEL 講座 - EXCEL の基礎③ -
  1. グラフの基本、各種名称
  2. グラフの作成
  3. 表を並べて表示
  4. 表を見やすくする（テーブル）
  5. 表内のセル書式設定
  6. 表内のセルの強調表示
  7. 表からデータを絞り込む（フィルター）
  8. 表から小計、統計表示
  9. 複合グラフの作成
  - 10.その他



この QR コードをスマホのアプリで読み  
込むと、テキストを見ることが出来ます。



この QR コードをスマホのアプリで読み込むと、  
材料を見ることが出来ます。

- 参加者：17名+Z2名
- テキスト：パソコンを使いこなす会\_2022年11月8日\_テキスト

## 2022年度 第16回分科会

- 日時：11月15日（火）9：30～12：00
- 場所：八景コミュニティハウス
- 内容：Windows 講座 -パソコンのスペック -
  - 1.パソコンの性能
  - 2.スペックの表示.
  - 3.メモリ
  - 4.記憶域
  - 5.CPU
  - 6.ベンチマークスコア
- 参加者：16名+Z2名
- テキスト：パソコンを使いこなす会\_2022年11月15日\_テキスト



このQRコードをスマホのアプリで読み込むと、テキストを見ることが出来ます。

---

## 2022年度 第17回分科会

- 日時：12月13日（火）9：30～12：00
- 場所：八景コミュニティハウス
- 内容：Windows 講座 -パソコンの高速化-
  1. ページファイル (pagefile.sys)
  2. Explore
  3. Windows10/11 最新版に更新
  4. Google Chrome
  5. Microsoft Edge
- 参加者：14名+Z4名
- テキスト：パソコンを使いこなす会\_2022年12月13日\_テキスト



このQRコードをスマホのアプリで読み込むと、テキストを見ることが出来ます。

---

## 2022年度 第18回分科会

- 日時：12月20日（火）9：30～12：00
- 場所：八景コミュニティハウス
- 内容：Internet 講座 -YouTube -
  1. YouTube への動画アップロード
  2. 動画の編集
  3. アップロード条件の設定
  4. 動画の共有
- 参加者：15名
- テキスト：パソコンを使いこなす会\_2022年12月20日\_テキスト



このQRコードをスマホのアプリで読み込むと、テキストを見ることが出来ます。

# 行事予定

2023年3月～2023年5月の予定

注：表中の「CC」は、「地区センター」の略

	3月	4月	5月
学習会	予定なし	予定なし	5月13日(土) 9:30～12:30 “わ”の会定期総会 学習会 ・「イトーヨーカドー」「デニーズ」 「セブンイレブン」創業の物語 ・講師“わ”の会会員野々山隆幸氏
寺社を 巡る会	3月2日(木) 10:00 集合場所：京急富岡駅 テーマ：別荘文化発祥の地・富岡と 宮司の講話 訪問先：京急富岡駅～旧川合玉堂邸 (二松庵)庭園見学～井上馨別邸跡 ～伊藤博文仮寓跡～富岡八幡宮(宮 司講話)～京急富岡駅	4月6日(木) 10:00 集合場所：鎌倉駅西口時計台広場 テーマ：扇ガ谷の足利・徳川ゆかりの 地を歩く 訪問先：JR 鎌倉駅～英勝寺～浄光 明寺～亀ヶ谷坂～北鎌倉駅 4月14日(金) 14:00～(受13:30) 場所：金沢公会堂多目的室 令和4年度 定時総会	5月4日(木) 集合：時間・場所未定 テーマ：未定
古文書を 読む会	3月9日(木) 10時～12時 場所：金沢公会堂第二会議室 テーマ：尾張藩主徳川慶勝③	4月13日(木) 10時～12時 場所：金沢公会堂第二会議室 テーマ：尾張藩主徳川慶勝④	5月11日(木) 10時～12時 場所：未定 テーマ：尾張藩主徳川慶勝⑤
ふれあいの 道歩こう会	3月16日(木) 予備日17日(金) 湘南軽便鉄道の廃線跡を辿る 神奈川県秦野市、中井町、二宮市	4月20日(木) 予備日21日(金) 聖峰～鷹取山～善波峠～吾妻山 神奈川県伊勢原市	5月18日(木) 予備日19日(金) 石老山(702m) 神奈川県相模原市
懐かしの 映画を 観る会	3月13日(月) 金沢CC 12:15～ 天国と地獄 3月27日(月) 金沢CC 12:15～ 壬生義士伝	4月10日(月) 金沢CC 12:15～ カサブランカ 4月27日(月) 金沢CC 12:15～ レ・ミゼラブル	5月8日(月) 金沢CC 12:15～ しあわせの隠れ場所 5月22日(月) 金沢CC 12:15～ わが谷は緑なりき
浮雲 俳句会	3月26日(日) 10:00～ 第169回句会 会場：晴嵐かなざわ 課題：当季雑詠3句、兼題1句	4月30日(日) 10:00～ 第170回句会 会場：晴嵐かなざわ 課題：当季雑詠3句、兼題1句	5月28日(日) 10:00～ 第171回句会 会場：晴嵐かなざわ 課題：当季雑詠3句、兼題1句
パソコン を使い こなす会	3月14日(火) 八景コミハ Internet 講座 -LINE- 3月21日(火) 八景コミハ スマホ講座 -LINE- 9:30～12:00	4月11日(火) 八景コミハ WORD 講座 -書式設定- 4月18日(火) 八景コミハ Internet 講座 -Google ドライブ・Pdf 編集- 9:30～12:00	5月9日(火) 八景コミハ WORD 講座 -WORD を使いこなす③- 5月16日(火) 八景コミハ WORD 講座 -WORD を使いこなす④- 9:30～12:00

## 連絡先

- ・学習会 080-6755-1473(江口) ・古文書を読む会 784-4900(真田) ・浮雲俳句会 783-0278(太田)
- ・ふれあいの道歩こう会 790-0128(柴崎) ・懐かしの映画を観る会 080-5172-6151(鶴岡)
- ・寺社を巡る会 090-1840-0916(横山) ・パソコンを使いこなす会 090-2539-8202(相川)

<b>編集後記</b> 編集委員になって1年半を過ぎた。改めて会報等を読み直してみたら、会報やHPは質・量とも充実している、と改めて気づく。「学習会」の記録では、講演内容を記載しながら、そのうえ、感想も付け加える。結構たいへんな作業である。事典を発行するぐらいの会であるので当然かもしれない。いくつか知っている金沢区の生涯学習から出発した団体のなかでも当会が一番充実している。また、この会報でも寄稿を常に募集しているが、更にいろいろの方の原稿を読んでみたい。私も書く力をつけたいと思うこの頃だ。 松崎 寛 記	発行日	2023年2月12日
	発行月	年4回発行(2、5、8、11月)
	発行者	金沢区生涯学習“わ”の会
	編集長	鶴岡 重典
	編集委員	兒玉 國宏 鈴田 祥代 佐藤 和広 松崎 寛 熊谷 信雄 橋 博章 斧原 良一 山腰 策次